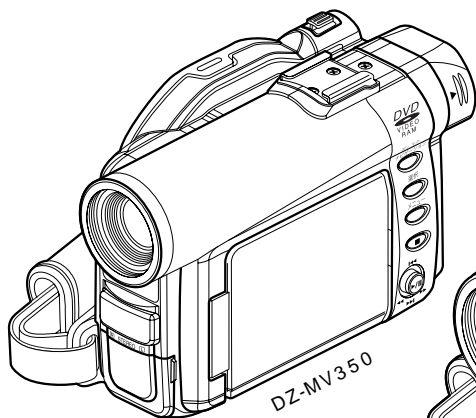
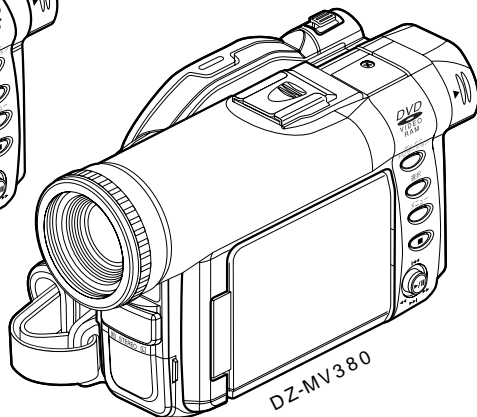
HITACHI
Inspire the Next

DZ-MV350形
DZ-MV380形

DVDCAM

取扱説明書

本機で撮影するには、DVD-RAM規格に準拠した8cm　DVD-RAMディスク、またはDVD-R for Generalに準拠した8cm DVD-Rディスクが必要です。

MultiMediaCard™

このたびは、日立DVDビデオカメラをお買い上げいただき、
まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
お読みになったあとは、保証書とともに大切に保存してください。
同梱のCD-ROMを開封する前に必ずP.197をお読みください。
この取扱説明書ではDZ-MV380のイラストを表紙のみに記載しております。
操作方法はDZ-MV350と同様です。

もくじ

パソコンと接続する

その他

安全にお使いいただくために

注意事項の記載方法

本書では、本機を安全にお使いいただくためにご注意いただきたいことを、3段階に分けて記載しています。

危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡したり重傷*1を負う危険が差し迫って生じることが想定される事項を説明しています。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡したり重傷*1を負う可能性が想定される事項を説明しています。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害*2を負ったり、物的損害*3が発生したりする可能性が想定される事項を説明しています。

***1 重傷**　**失明、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、または治療に入院や長期の通院を要するものを指します。**

***2 傷害**　**治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど（高温・低温）、感電などを指します。**

***3 物的損害**　**家屋、家財、および家畜、ペットに関わる拡大損害を指します。**

重要な説明を示す記号

重要な説明が一目でわかるように、以下に示す記号を使用しています。

	「注意」していただきたい内容を示します。	水ぬれ禁止	「水にぬらすことを禁止する」ことを示します。
禁止	してはいけない「禁止」行為を示します。	風呂、シャワー室での使用禁止	「風呂場やシャワー室などでの使用禁止」を示します。
分解禁止	「分解禁止」を示します。		「強制」記号です。必ず実行していただきたいことを示します。
ぬれ手禁止	「ぬれた手で扱うことを禁止する」ことを示します。		コンセントから必ず「電源プラグを抜く」ことを示します。

⚠ 危険

リチウム電池の取り扱いに注意する	リチウム電池を取り扱うときは、次のことを守ってください。 ・火や水の中に投入しない ・火に近づけたり、加熱しない ・ショートさせない ・鍵などの金属物と接触させない ・分解・改造しない ・衝撃を与えない ・高温場所（60℃以上）で使用しない 万一液漏れしたときは、よくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。液が身体や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。	 禁止
バッテリーパックの取り扱いに注意する	発熱・破裂・火災・液漏れなどの原因となるので、バッテリーパックを取り扱う際には、次のことを守ってください。 ・火のそばや炎天下で充電しない ・指定外のバッテリーパックを使用しない （専用バッテリーパック　型名：DZ-BP14S／DZ-BP14SJ）	 禁止

⚠ 警告

異常なときは使わない	煙が出ている、変なにおいがするなど異常なときは、ただちに使用を中止し、バッテリーパックやACアダプター／チャージャーなどの電源を外してください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。修理については、販売店にご相談ください。お客様による修理は危険ですから、絶対にお止めください。 本機を落としたりして強い衝撃を与えると、ケースが破損し、異常な状態になることがあります。	 禁止
分解・改造しない、カバーを開けない	本機・ACアダプター／チャージャーを分解・改造すると、火災や感電の原因となります。カバーの内部には、電圧の高い危険な部分もあります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。	 分解禁止

警告

内部に異物を入れない	本機・AC アダプター／チャージャーの内部に水や金属類、燃えやすいものを入れないでください。火災や感電の原因となります。万一異物が内部に入った場合は、すぐに使用を中止し、バッテリーパックや AC アダプター／チャージャー・電源コードを外して販売店にご相談ください。	禁止
自動車などの運転中は使わない	自動車・オートバイ・自転車などの運転中に撮影や再生をしないでください。交通事故の原因となります。	禁止
歩きながら使うときは、周囲の状況に注意する	歩きながら使用すると、転倒や交通事故の原因となることがあります。また、不安定な場所での撮影は、転倒や転落などにより事故や大けがの原因となります。撮影するときは、周囲の状況に注意を払ってください。	
雷が鳴るときは使わない	屋外で使用中に雷が鳴り出したら、安全のため使用を中止してください。	禁止
AC アダプター／チャージャーを水にぬらさない	風呂場やシャワー室などの水のかかるところで AC アダプター／チャージャーを使用しないでください。火災や感電の原因となります。	風呂、シャワー室での使用禁止
AC アダプター／チャージャーは電源コンセントの近くで使用する	AC アダプター／チャージャーは、電源コンセントの近くで使用してください。タンスの裏や机の下など、手の届きにくいところの電源コンセントには差し込まないでください。	
AC アダプター／チャージャーのケースを破損しない	万一落としたりしてケースを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。	
AC アダプター／チャージャーは風通しのよい広い所で使用する	AC アダプター／チャージャーは、風通しのよい広い所で使用してください。内部に熱がこもり、ケースが変形するだけでなく、火災・やけど・感電・故障のおそれがあります。周囲の風通しをさえぎるせまい場所や、物の近く、またはその中で使用しないでください。	

⚠ 警告

電源コードを破損しない	電源コードを破損しないよう、取り扱いの際は、次のことを守ってください。 ・刃物などで傷つけない ・ねじらない ・無理に曲げない ・重いものや角が鋭利なものをのせない ・加熱しない ・引っ張らない ・加工しない ・束ねない ・敷物などでおおわない 万一コードが破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご相談ください。そのまま使用すると､火災や感電の原因となります。	禁止
電源プラグは完全に接続する	電源プラグの接続が不完全なまま使用すると、接触不良で発熱し、火災の原因となります。	
たこ足配線をしない	火災の原因となります。	禁止
電源プラグに異物を付着させない	電源プラグにほこりや汚れ、金属などの異物が付着したまま使用すると、発熱し、火災や感電の原因となります。異物が付着したときは、電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で異物を取り除いてください。	禁止
市販の電子式変圧器は使わない	海外旅行用に市販されている電子式変圧器にACアダプター／チャージャーを接続しないでください。火災や感電の原因となります。	禁止
ショルダーストラップを首に巻きつけない	窒息の原因となります。	禁止
同梱品のビニール袋に注意する	同梱品が包装されているビニール袋をかぶると、窒息の原因となります。	
リチウム電池を放置しない	リチウム電池を取り外したときは、幼児の手の届かないところに保管してください。 万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。 廃棄および保管するときは、テープなどで絶縁してください。 リチウム電池の廃棄方法につきましては各自治体により異なります。お住まいの地域の指示に従って廃棄してください。	

⚠注意

バッテリーパック、ショルダーストラップ、グリップベルトは正しく取り付ける	取り付けかたが不完全なまま使用すると、落下などにより、けがの原因となることがあります。	
水にぬらさない	本機に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。故障の原因となります。雨天時、降雪時、海岸や水辺での使用時には、特にご注意ください。	水ぬれ禁止
レンズ・ビューファインダーを太陽光に向けない	レンズ・ビューファインダーを太陽光に向けたままにしておくと、集光により発熱し、火災の原因となることがあります。	禁止
航空機の中では使わない	航空機の中など、使用を制限または禁止されているところでは使用しないでください。本機の出す電磁波により、航空機の計器類に影響を及ぼすことがあります。	
幼児の手の届くところに置かない	ディスク挿入部のふたなどに手をはさまれて、けがの原因となることがあります。お子様が触らないようご注意ください。	
内部の部品にふれない	ディスク挿入部のふたを開けて、中に指を入れたり、内部の部品にふれたりしないでください。けがの原因や故障の原因となることがあります。	禁止
不安定な場所で三脚を使わない	倒れてけがの原因となります。	禁止
三脚を付けたまま持ち運ばない	持ち運んでいるときの振動や衝撃により、三脚のねじがゆるんで本機が落下し、けがの原因となることがあります。	禁止
かゆみ・かぶれ・湿疹などに注意する	お客様の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合は、ただちに使用を止め医師の診断を受けて下さい。	
本機を落とさない	ガラス部分が壊れ、けがの原因となることがあります。またバッテリーパックが破損すると、液漏れにより、けがや周囲の汚損の原因となります。	禁止
電源コードや接続ケーブルに注意する	電源コードや接続ケーブルに足を引っ掛けると、転倒したりけがの原因となることがあります。	

⚠ 注意

ディスクの取り出しに注意する	ディスクは、長時間使用すると高温になります。電源を切って十分時間が経ってから取り出すようにしてください。	
電源コードを引っ張って抜かない	コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。コンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。	禁止
ぬれた手でプラグの抜き差しをしない	AC アダプター／チャージャーのプラグを抜き差しするときは、ぬれた手で触らないでください。感電の原因となることがあります。	ぬれ手禁止
本機や電源コードを熱器具に近づけない	機器表面や部品が劣化するほか、火災や感電の原因になることがあります。	禁止
長期間使わないときは、電源プラグをコンセントから抜く	電源プラグをコンセントにつないだまま長期間放置すると、火災の原因となることがあります。	
A C アダプター／チャージャーを振動の多いところに置かない	振動によって内部部品が破損すると、発熱し、火災や故障の原因となることがあります。	禁止
A C アダプター／チャージャーをほこりや湿気の多いところに置かない	内部にほこりや水分が入ると、火災や感電の原因となることがあります。	禁止
A C アダプター／チャージャーを油煙や湿気の当たるところに置かない	調理台や加湿器のそばに置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。	禁止
リチウム電池の向きに注意する	リモコンに電池を入れるときは、極性に注意してください。向きを間違えて入れると、電池の破裂や液漏れを招き、火災やけが、やけどなどの原因となります。万一液漏れしたときは、よくふき取ってから新しい電池を入れてください。液が身体や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。	+
バッテリーパックやリチウム電池の保管場所に気をつける	直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所を避けて保管してください。	
リチウム電池に直接ハンダ付けしない	火災や感電の原因となることがあります。	禁止

取り扱い上のご注意

使用上の注意

液晶モニターの取り扱いにご注意ください

- 液晶モニターは、とても繊細な表示装置です。壊れやすいので、表面を強く押したり、叩いたり、先のとがったもので突いたりしないでください。
- 表面を押すと、表示ムラができることがあります。表示ムラがなかなか消えないときは、いったん電源を切り、しばらく待ってから入れ直してください。
- 液晶モニターを下側にして本機を置かないでください。
- 本機の液晶モニターは、使用しないときは閉じてください。

液晶モニター・ビューファインダーについて

- 液晶モニターやビューファインダーは非常に精密度の高い技術で作られています。全表示画素のうち（液晶モニターは約 12 万画素、ビューファインダーは約 11 万画素）0.01%以下の画素欠け（黒い点）や常時点灯（赤・青・緑）するものがあります。これは現在の技術の限界であり、不良ではなく、録画には支障ありません。
- 寒冷地など本体が冷えきっている場合や電源を入れた直後は、液晶モニターやビューファインダーが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

正しい持ちかたをしてください

- ビューファインダ−や液晶モニターをつかんで本機を持ち上げると、ビューファインダーや液晶モニターが外れて、本機が落下することがあります。

衝撃を与えないよう、ご注意ください

- 本機は精密機械です。硬いものにぶつけたり、落としたりしないよう、十分注意して取り扱ってください。
- 三脚に固定して使用するときは、極度に振動、衝撃の大きいところで使用しないでください。

砂やほこりがかからないよう、ご注意ください

- 細かい砂やほこりが本機・ACアダプター／チャージャーの内部に入ると、故障の原因となります。

水や油など、液体がかからないよう、ご注意ください

- 本機・ACアダプター／チャージャーの内部に水や油が入ると、感電や故障の原因となります。

製品表面の熱について

- 本機は製品表面が多少熱くなりますが、故障ではありません。

接続したテレビの画面について

- ディスクナビゲーション画面や静止画、カメラ画面を接続したテレビに表示したままにしないでください。テレビの画面に焼き付きなどの損傷を与えることがあります。

環境の温度にご注意ください

・ 気温40°C以上の暑いところや、0°C以下の寒いところで使用すると、正常に撮影／再生できないことがあります。

・ 本機とパソコンをつないで使用するときは、室温で行なってください。また、長時間連続使用しないでください。気温の高いところで長時間使用すると、本機が熱くなり正常に動作しなくなることがあります。

・ 海岸の砂の上や締め切った車内などに長時間放置すると、故障するおそれがあります。

太陽に向けてはいけません

・ レンズやビューファインダーに直射日光が入ると、本機が故障したり火災が発生するおそれがあります。
・ 液晶モニターを直射日光に当てたまま放置すると、故障の原因となります。

テレビやラジオの近くで使わないでください

・ テレビ画面にノイズが出たり、ラジオに雑音が入ることがあります。

強い電波や磁気のあるところで使わないでください

・ 電波塔の近くやモーターが含まれる電化製品のそばなど、強い電波や磁気のあるところで使用すると、映像・画像・音声の記録時に雑音が入ることがあります。また、正常に記録されている映像・画像・音声でも、再生時に雑音が入ることがあります。本機が故障することもあります。

油煙や湯気の多いところで使わないでください

・ 本体ケースが変形したり、故障の原因となります。

腐食性ガスがあるところで使わないでください

・ ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなどの排気ガスや硫化水素のような腐食性のガスがあるところで使用すると、バッテリーパック取付け端子が腐食し、電源が入らなくなることがあります。

超音波加湿器の近くで使わないでください

・ 加湿器に入っている水の水質によっては、水中に溶けているカルシウムなどが空気中に飛散し、本機の光学ヘッドに白い粉として付着して、本機が正常に動作しなくなることがあります。

殺虫剤などがかからないようにしてください

・ 本機の内部に殺虫剤などが入ると、レーザーピックアップ部のレンズが汚れ、本機が正常に動作しなくなることがあります。殺虫剤などを使用するときは、本機の電源を切り、ビニールシートなどでカバーしてください。

市販の8cmCDレンズクリーナーを使用しないでください

・ 一般的な使用では、レンズクリーニングは不要です。

・ 8cmCDレンズクリーナーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。

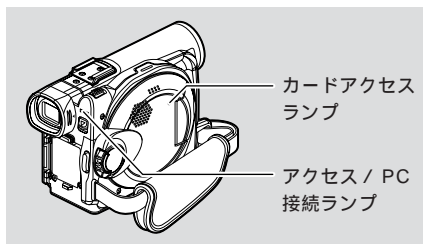
露つきにご注意ください

・ 冬にスキー場のゲレンデからロッジに入ったり、夏に冷房の効いた部屋や車内から屋外に出たりしたときに、極端な温度差によりレンズや本機の内部に結露（暖かい水蒸気が急速に冷やされて水滴になること）することがあります。できるだけディスクやカード挿入部のふたは開けないでください。レンズが結露した場合は、乾いたやわらかい布でふき取ってください。外部が乾いても内部に結露が残っている場合があります。電源を切った状態でなるべく乾燥した場所に 1 〜 2 時間以上置き、乾いてからお使いください。

長時間連続して使うことはできません

・ 本機は、監視カメラやモニターとして長時間連続して使用することはできません。長時間連続して使用した結果、温度が一定限度を超えて上昇すると、記録／再生動作が遅くなることがあります。この場合は、電源を切ってしばらくたってから使用してください。

アクセス／ PC 接続ランプやカードアクセスランプが点灯または点滅しているときは、本機の電源を切らないでください

・ アクセス／ PC 接続ランプやカードアクセスランプが点灯または点滅しているときは、ディスクやカードにデータが書き込まれたり、読み出されたりしています。このときに以下のことをするとデータが壊れるおそれがあります。

  ・バッテリーパックを取り外す
  ・AC アダプター／チャージャーとの接続を外す
  ・PC 接続ケーブルを抜き差しする
  ・ディスクやカードを取り出す
  ・強い振動や衝撃を加える
  ・液晶モニターを激しく開閉する

ディスク使用時、アクセス／ PC 接続ランプが点灯または点滅しているときに、万一電源を切ってしまった場合は、ディスクを入れたまま、再度電源を入れてください。ディスクの修復を行ないます（☞P.174）。

本体ケースをベンジンやシンナーなどでふかないでください

・ 本体ケースの塗装がはがれたり、変形することがあります。
・ 化学ぞうきんをご使用の場合は、その注意書きに従ってください。

別売アクセサリーの説明書もお読みください

・ 別売のアクセサリーについては、それぞれの注意書きや取扱説明書の指示に従ってください。

保管上の注意

非常に高温になるところに長時間放置しないでください

- 締め切った車内やトランク内は、非常に高温になります。そのような場所に置いたままにすると、本機が故障したり、本体が変形したりするおそれがあります。また、直射日光が当たるところや熱器具の近くにも置かないでください。

湿気やほこりの多いところで保管しないでください

- 本機の内部にほこりが入ると、故障の原因となります。また、湿気が多いと、レンズにカビが生えて使えなくなることがあります。押入れや戸棚に保管するときは、乾燥剤（シリカゲル）と一緒に箱に入れることをおすすめします。

強力な磁気や激しい振動のあるところに置かないでください

- 故障の原因となります。

バッテリーパックは、本機から取り外して涼しいところで保管してください

- 取り付けたままにしたり、高温のところで保管すると、バッテリーパックの寿命を縮める原因となります。

ご注意いただきたいこと

ためし撮りをしましょう

- 本番前に必ずためし撮りをして、正常に記録されることを確認してください。本機の故障のため正常に記録できなかったデータは復元できません。
  また、ためし撮りは録画した内容を消去することができるDVD-RAMディスクをお使いになることをおすすめします。

録画内容の補償はできません

- 本機やディスク、カードの不具合により、正常に記録されなかったり、再生できなくなった記録内容の補償はご容赦ください。また、お客様が撮影された映像や音声に関しても、当社は一切責任を負いません。
- お客様または第三者が本機やディスク、カードの使いかたを誤ったりしたとき、録画した内容が消失することがあります。録画した内容の消失による損害の補償については、ご容赦ください。

著作権について

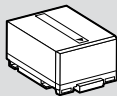
- お客様が他のデジタル／アナログのメディア／機器から本機のディスクやカードに記録したデータは、個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。また、実演や興業、展示物などは、個人として楽しむ目的でも撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。

業務用として使わないでください

- 本機は一般のご家庭での撮影／再生を目的として作られています。

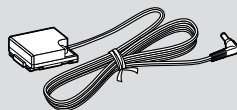
付属品の確認

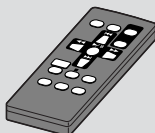
箱を開けたら、付属品がすべてそろっているか、必ず確認してください。

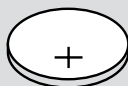
バッテリーパック
（型番：DZ-BP14S）

本機の充電式バッテリーです。充電してからお使いください。

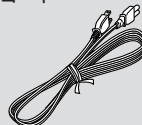
ACアダプター／チャージャー
（型番：DZ-ACS1）

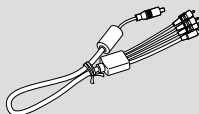
家庭用コンセントから電源をとるときに使用します。バッテリーパックを充電するときにも使用します。

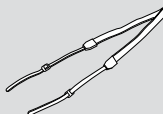
DC パワーコード

家庭用コンセントから電源をとるときに、本機と AC アダプター／チャージャーとを接続します。

リモコン（型番：DZ-RM3J）

本機を遠隔操作するときに使用します。

リモコン用リチウム電池
（型番：CR2025）

リモコン用の電池です。

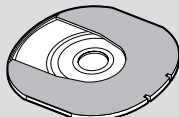
電源コード

家庭用コンセントと AC アダプター／チャージャーとを接続します。

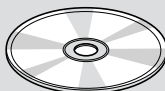
AV ／ S 入出力ケーブル

本機の映像と音声をテレビで見るときや、他のビデオ機器に映像と音声を入出力するときに使用します。

ショルダーストラップ

本機を肩から下げるために取り付けます。

レンズキャップ
レンズキャップひも

撮影していないときは、レンズ保護のためレンズキャップを付けてください。

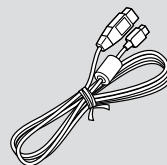
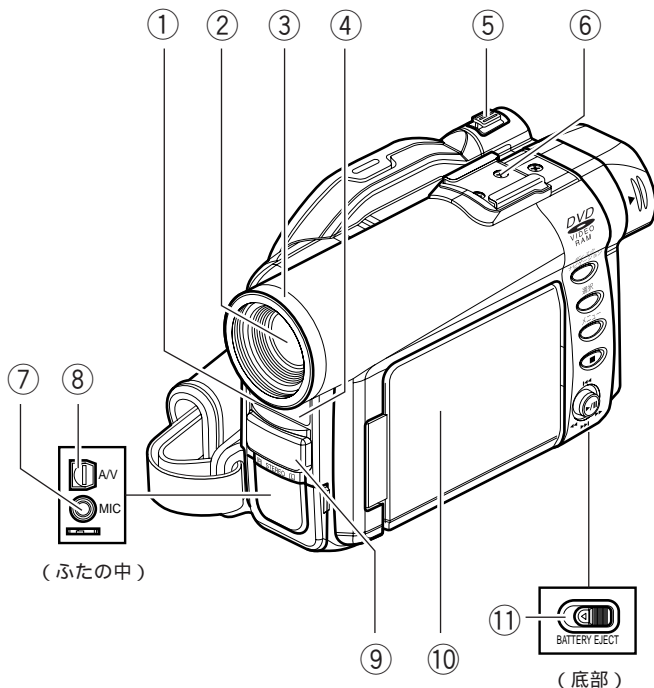
8cm DVD-R ディスク
（丸型ホルダー付き）

本機の映像（動画）を記録します。

ソフトウェア CD-ROM

パソコンと接続するときに使います。

PC 接続ケーブル

各部の名称

（ふたの中）

（底部）

① **録画ランプ（P.47、76、87、91）**
録画中、赤く点灯します。

② **光学 10 倍ズームレンズ（P.51）**

③ **レンズフード（P.52）**
市販のテレコンバージョンレンズ、ワイドコンバージョンレンズをお使いのときは、取り外してください。

④ **リモコン受信部（P.32）**

⑤ **ズームレバー（P.51、53）**
T 側に押すと望遠に、W 側に押すと広角になります。

⑥ **アクセサリーシュー**
DZ-MV380 の場合のみ：
別売のビデオフラッシュを、ここに取り付けます。カバーを指の腹などでスライドさせるようにして外して、取り付けてください（詳しくは、取り付ける機器の取扱説明書をご覧ください）。

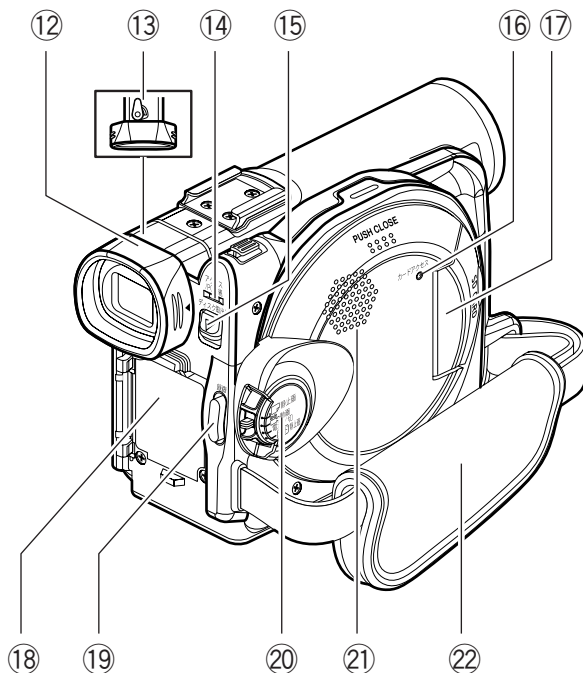
⑦ **外部マイク端子（P.48）**

⑧ **AV ／ S 入出力端子（P.61、69）**

⑨ **ステレオマイク（P.48）**

⑩ **2.5 型カラー液晶モニター（P.43、44）**

⑪ **BATTERY EJECT スイッチ（P.34）**
本機底部にあります。
バッテリーを取り外すときにスライドさせます。

DZ-MV350、DZ-MV380 は外観が異なりますが、操作方法は同じです。本文中のイラストは、DZ-MV350 で説明しています。

⑫ **ビューファインダー（P.30、43）**

⑬ **視度調節つまみ（P.43）**
ビューファインダーのピントを調節します。（ビューファインダーを引き出してください。）

⑭ **アクセス／PC 接続ランプ（P.43）**
カメラが動作中に点滅または点灯します。

⑮ **ディスク取出しボタン（P.38）**
ディスクホルダーを開けるときに押し下げます。

⑯ **カードアクセスランプ（P.43）**

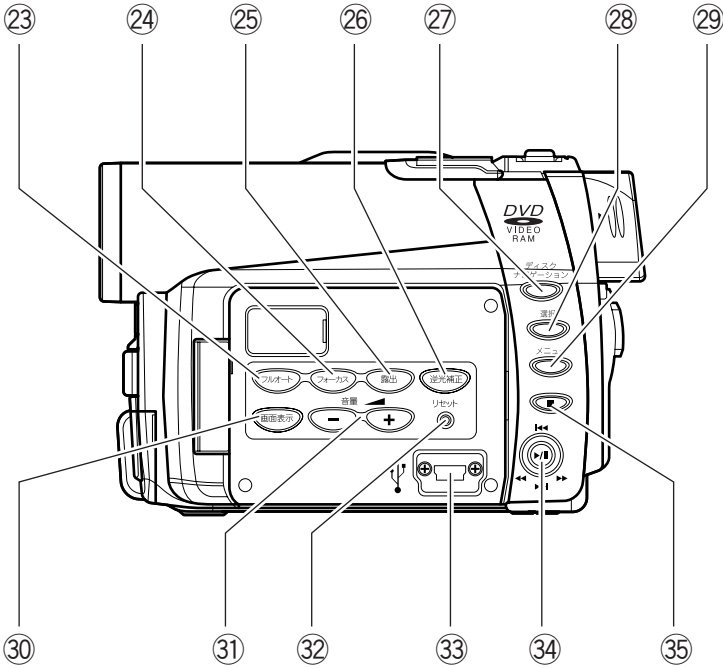
⑰ **カード挿入部（P.41）**

⑱ **バッテリー取り付け部（P.34）**

⑲ **録画ボタン（P.47、49）**

⑳ **電源スイッチ（P.42）**

㉑ **スピーカー（P.63）**

㉒ **グリップベルト（P.30）**

㉓ **フルオートボタン（P.57）**
フルオート撮影をしたいときに押します。

㉔ **フォーカスボタン（P.53）**
マニュアルフォーカスとオートフォーカスの切り替えをします。

㉕ **露出ボタン（P.55）**
露出を調整するときに押します。

㉖ **逆光補正ボタン（P.56）**
逆光のときに押します。

㉗ **ディスクナビゲーションボタン（P.93）**

㉘ **選択ボタン（P.96）**

㉙ **メニューボタン（P.75、78）**
カメラの機能などを設定するためのメニューやディスクナビゲーションのメニューを表示します。
カメラメニューは、ディスクやカードが入っていない場合でも表示されます。

㉚ **画面表示ボタン（P.58、60）**
再生中の映像の詳細や、カメラの設定状態を表示したり、消したりできます。

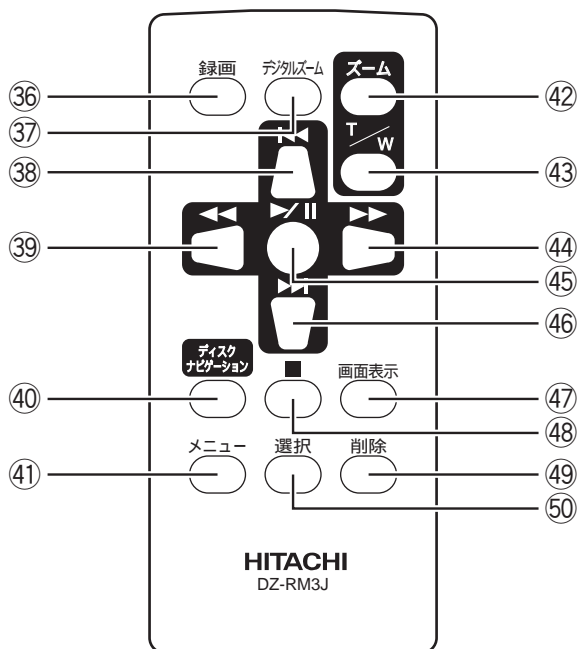
㉛ **音量ボタン／⊖ ⊕ ボタン（P.53、55、63）**
スピーカーから聞こえる音量などを調節します。

㉜ **リセットボタン（P.186）**
すべての設定を工場出荷状態に戻します。

㉝ **PC 接続端子（P.142）**

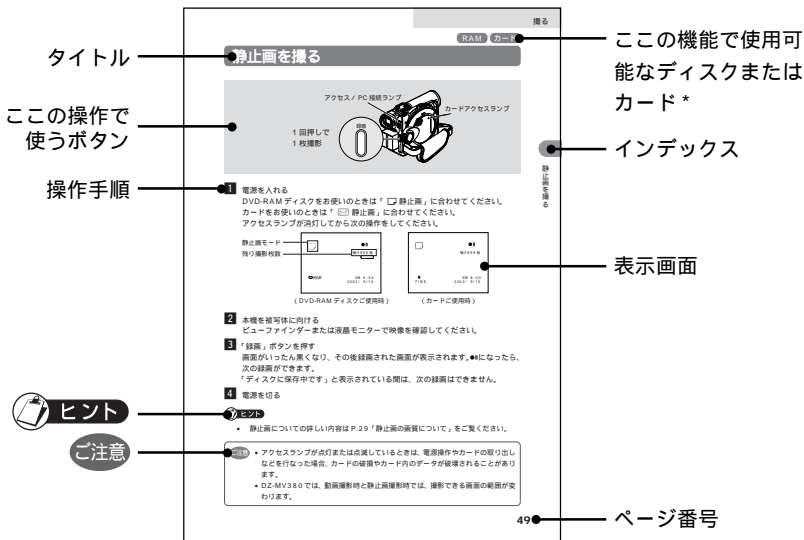
㉞ **ジョイスティック（P.45、63、75）**

上下左右に動かして、シーンやメニューを選んだり、再生、一時停止したりします。

㉟ **停止／キャンセルボタン（P.63、77）**
再生を終了します。

㊱ **録画ボタン（P.47、49）**
㊲ **デジタルズームボタン（P.82）**
㊳ **逆方向スキップボタン（P.65）**
㊴ **逆方向サーチボタン（P.64）**
㊵ **ディスクナビゲーションボタン（P.93）**
㊶ **メニューボタン（P.75、78）**
㊷ **ズーム T ボタン（P.51）**
㊸ **ズーム W ボタン（P.52）**
㊹ **正方向サーチボタン（P.64）**
㊺ **再生／一時停止ボタン（P.63、77）**
㊻ **正方向スキップボタン（P.65）**
㊼ **画面表示ボタン（P.58、60）**
㊽ **停止ボタン（P.63、77）**
㊾ **削除ボタン（P.99）**
㊿ **選択ボタン（P.96、110）**

※リモコンのボタンは、本機のボタンと同じ動作をします。

本書について

この取扱説明書は、ほとんどが次のようになっています。ページによっては配置などが異なる場合もありますが、基本的には同じ説明方法です。
よくお読みいただき、正しくお使いください。

* 本機に搭載されている機能のなかには、使用するディスクやカードによって、使用できる機能に制限があります。
ご使用になるディスクやカードがその機能に対応しているかどうかは、右上のマークで識別してください。

RAM：DVD-RAM ディスク　　**R**：DVD-R ディスク

カード：SD メモリーカードまたはマルチメディアカード

本書内の画面について

実際にご覧になる映像とは異なることをご了承ください。

こんなことができます!!

再生途中でもすぐに撮影できます

テープのように撮影開始場所を探したり、頭出しする必要がありません。
再生を途中で止めて、そこから撮影を開始しても上書きされることはありません。

再生を途中で
止めて…

すぐに撮影を
開始しても…

上書きされることはありません

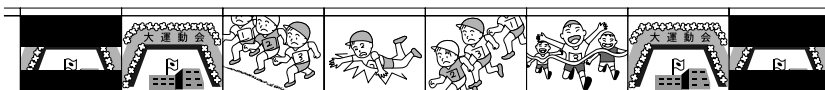
見たいシーンがすぐに再生できます

テープのように巻き戻す必要がありません。
見たいシーンを選んですぐに再生できます（ディスクナビゲーション機能）。

ディスクナビゲーション機能を使ってオリジナルムービーを作りましょう

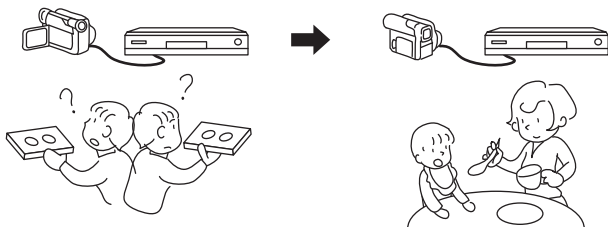
いらない場面を削除したり、シーンを並べ替えたりして、自分だけのムービー作品を作ることができます（プレイリスト）。

編集前

編集後

面倒だったテープ編集も簡単にできます

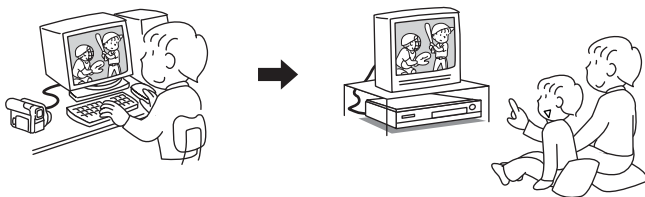
お子様のシーンだけを編集してビデオデッキにダビングするといった作業は、これまで大変でした。
本機を使えば、ディスクナビゲーション機能のプレイリストでお子様のシーンだけを集めたオリジナルムービーを作り、それを再生してビデオデッキにダビングするだけです。しかも同じテープを何本も作ることも簡単です。

今までは…
ボタンを繰り返し押さなくてはいけなかった。

これからは！
本機を再生し、ビデオデッキの録画ボタンを押すだけ。

パソコンを使ってオリジナル DVD を作成できます

同梱のソフトウェアCD-ROMを使用して、DVD-Rディスクでオリジナル DVDを作成することができます。
作成した DVD ディスクは、DVD プレーヤーや DVD-ROM ドライブで再生することができます。

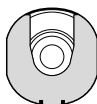
オリジナル DVD 作成中

DVD を再生

ディスクやカードについて

本機で使用できるディスク、カードは以下の表です。それぞれ以下の特長があります。

種類 特長	DVD-RAM ディスク	DVD-R ディスク	SD メモリーカード マルチメディアカード
動画撮影	○	○	×
静止画撮影	○	×	○
撮った映像を消す	○	×	○
本機で編集する	○	×	×
DVD プレーヤーで見る	×※1	○※2	×
DVD-RAM レコーダーで見る	○	○※2	×※3

※ 1： 再生可能な DVD プレーヤーもあります。
※ 2： DVD プレーヤーや DVD レコーダーで再生するために、ファイナライズが必要です（P.133）。
再生できない DVD プレーヤーもあります。
※ 3： 再生可能な DVD-RAM レコーダーもあります。

使用できるディスクについて

使用できるディスクとマーク（ロゴ）		形状
DVD-RAM Ver2.1 (8 cm)	DVD RAM RAM4.7	丸型ホルダー入り
DVD-R [for General Ver2.0 (8 cm)]	DVD R R4.7	

本機で使用できるディスクは、ビデオカメラ用の 8cmDVD-RAM ディスクと 8cmDVD-R ディスクだけです。
本機では中身のディスクだけでの使用はできません。丸型ホルダーに入れてご使用ください。

- ディスクは本機と組合せ動作が確認されている日立マクセル製のディスクをお使いになることをおすすめします。日立マクセル製以外のディスクをお使いになると、本機の性能が十分発揮されないことがあります。
- 初期化されていないディスクをお使いになるときは、初期化が必要です。初期化していないディスクを本機に入れるとメッセージが表示されますので、画面の指示に従い初期化してください（☞ P.131）。
- 丸型ホルダーは、以下の製品では使用できません。
  ディスクが取り出せなくなることがあります。
  ー DZ-MV100
  ー DZ-MV250
  ー DZ-MV270
  ー その他、角形アダプタを使用する DVD カメラ

DVD-R ディスクについて

DVD-R ディスクには静止画の録画はできません。また、録画した映像やデータの消去もできません。本機では、DVD-R ディスクで最適な録画を行なうため、録画をともなうディスクの出し入れの際にディスクの書き込み調整を行います。ディスク調整のための書き込み領域がなくなると録画できなくなることがありますので、録画をともなうディスクの出し入れは1枚のDVD-R ディスクに対して、50回以上行なわないようにしてください。ディスクを入れたままでの電源の入/切や、ディスクを出し入れしても、録画をしなければ、ほとんど書き込み調整は行われません。

- 本機で記録したディスクで、ファイナライズしていないディスクは、DVD ビデオレコーダーなどの記録できる機器に入れないでください。記録データが壊れることがあります。
- パソコンなどで編集してファイナライズしたり、DVD ビデオレコーダーでファイナライズした DVD-R ディスクは、ご使用になる編集ソフトや DVD-R ディスクの記録状態によっては、本機で再生できない場合があります。

本機で使用できないディスクの例

以下のディスクは、本機で使用できません。

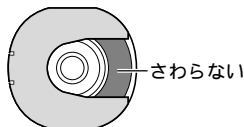
- DVD-RAM (2.6GB) Ver. 1.0
- DVD-R (3.9GB) Ver. 1.0
- DVD-R (4.7GB) for Authoring Ver. 2.0
- DVD-RW
- DVD+RW
- DVD+R
- CD-ROM
- DVD-ROM
- DVD ビデオ
- CD-R
- CD-RW
- CD
- LD
- MO
- MD
- iD
- フロッピーディスク
- 直径 8cm 以外のディスク

- パソコンや DVD レコーダーで記録されたディスクは、本機で再生できない場合があり、“このディスクは使用できません”と表示されたり、青色のサムネイル（☞ P.25 図 1*）が表示されたり、正常に再生できない場合があります。

ディスクの取り扱いについて

●ディスクの扱いかた

DVD-RAM ディスクや DVD-R ディスクは、非常に繊細な記録メディアです。
下記の注意事項をよくお読みになり、正しくお使いください。

- 本機で使用する場合は、必ず丸型ホルダーに入っている状態でお使いください。
- 貴重な映像を撮影する場合は、新品のディスクをお使いください。
- ディスクがむき出しになっているところは、手を触れたり、汚れが付着したりしないように十分ご注意ください。

- ディスクにゴミ・傷・汚れ・ソリがあると、以下のような現象が発生する場合があります。
  - 再生映像のブロックノイズ
  - 再生映像の一瞬停止
  - 再生中の音の途切れ、異常音
  - 青色のサムネイル表示*(図1参照)
  - ディスクを正しく認識しない
  - 映像と音声がずれる

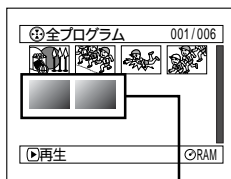



図 1

ブロックノイズ

ディスクが正常な場合でも、まれに上記のような現象が発生することがあります。アクセスランプが点灯しているときに、強い振動・衝撃を加えることや、極端な高低温、結露しやすい環境でのご使用は避けてください。

- ディスクのゴミや傷など記録できない部分を避けて記録することがあります（自動で一時停止（●II）し、自動で記録（● 記録）を再開します）。
  その結果、数秒から数分程度記録が中断し、右図のように一回の記録で複数のサムネイル（☞ P.93）ができます。この場合、記録可能な時間が減少します。

（一回の記録でも 2 つ以上のサムネイルになることがあります。）

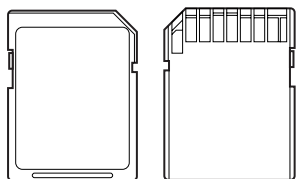
- ディスク取り出し時、取り出し口の金属やディスクが高温になっている場合がありますので、ご注意ください。

●ディスクの保管のしかた

- 保管するときは、丸型ホルダーごとプラスチックケースに入れてください。
- 結露させないでください。
- 以下のような場所には置かないでください。
  - 直射日光が長時間当たるところ
  - 湿気、ほこりが多いところ
  - 暖房器具などの熱が当たるところ

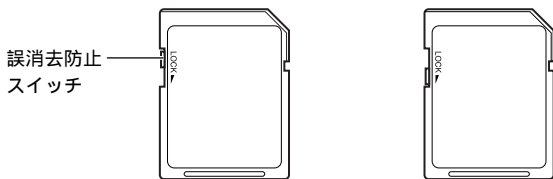
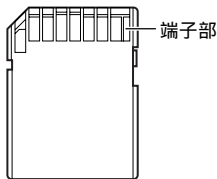
ヒント

- ディスクは取り出してクリーニングできます（☞ P.73）。
- 丸型ホルダーから取り出したディスクの扱いかた（☞ P.72）。
- 丸型ホルダーから取り出したディスクや、別のディスクを丸型ホルダーに正しくセットしたい（☞ P.73）。

使用できるカードについて

本機で使用できるのは、SDメモリーカードとマルチメディアカードです。

●カードの扱いかた

- 正規のカード以外は使用しないでください。
- 貴重な映像を記録する場合は、必ず新品のカードをお使いください。

- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- ラベルの貼り付け部には、専用ラベル以外は貼り付けないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下、暖房器具の近くなど、気温の高いところ
  - 湿気、ほこりが多いところ
- SDメモリーカードでは、誤消去防止スイッチをロックしておくと、記録や消去、編集ができなくなります。

ロックがかかっている状態

- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップをとっておくことをおすすめします。
- 以下の場合はデータが壊れたり、消失したりすることがありますので、注意してください。
  - 読み込み中や書き込み中にカードを抜いたり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

ディスクやカードの記録容量

動画の記録時間

記録画質により、記録できる時間が変わります。記録画質の設定はP.84をご覧ください。
ディスク 1 枚（片面）の動画の記録時間（動画のみを記録した場合）

記録画質＼使用ディスク	DVD-RAM ディスク	DVD-R ディスク
XTRA	約 18 分※1	記録できません
FINE	約 30 分※2	約 30 分※2
STD	約 60 分※3	約 60 分※3
LPCM	記録できません	約 30 分※4

※ 1： 可変ビットレート記録（撮影する被写体により約3Mbps～約10Mbpsの間で自動的に変わりますので 18 分以上記録できることもあります）
※ 2： 転送レート約 6Mbps
※ 3： 転送レート約 3Mbps
※ 4： リニアPCM記録（ご使用になるDVDプレーヤーがMPEGオーディオレイヤー 2 に対応していない場合は、LPCM モードで記録してください）

- XTRA、FINE および STD モードの音声は、MPEG オーディオレイヤー 2 方式です。MPEG オーディオレイヤー 2 方式は、DVD ビデオ規格のオプション規格です。

ご注意
- SD メモリーカードやマルチメディアカードには、動画は記録できません。
- DVD-RAM ディスクをご使用のときは途中で画質変更ができますが、DVD-R ディスクをご使用のときは、ディスクの途中での画質変更はできません。
- 高温の環境で長時間XTRAモードをご使用し記録した場合、本機が高温になり最大転送レートが約 6Mbps に制限される場合があります。
- XTRAモードで記録したディスクを高温の環境でご使用した場合、正常に再生できないことがあります。電源を切って、しばらくたってからお使いください。

静止画の記録枚数（ディスク）

（片面の記録枚数）
最大 999 枚　記録可能
※ ただし、999枚記録した後でもディスク容量に空きがあれば、動画の記録はできます。

静止画の記録枚数（カード）

（何も記録していないカードをご使用のとき）
記録画質によって、撮影できる枚数が変わります。
記録画質の設定は P.85 をご覧ください。

DZ-MV350 の場合

記録画質 / 容量	FINE	NORM	ECO
8MB	約 45 枚	約 95 枚	約 190 枚
16MB	約 100 枚	約 200 枚	約 400 枚
32MB	約 220 枚	約 440 枚	約 880 枚
64MB	約 440 枚	約 880 枚	約 1,760 枚
128MB	約 880 枚	約 1,760 枚	約 3,520 枚
256MB	約 1,760 枚	約 3,520 枚	約 7,040 枚
512MB	約 3,520 枚	約 7,040 枚	約 14,080 枚

（枚数は目安です）

DZ-MV380 の場合

記録画質 / 容量	FINE	NORM	ECO
8MB	約 8 枚	約 14 枚	約 20 枚
16MB	約 22 枚	約 35 枚	約 50 枚
32MB	約 50 枚	約 80 枚	約 110 枚
64MB	約 100 枚	約 160 枚	約 220 枚
128MB	約 200 枚	約 320 枚	約 440 枚
256MB	約 400 枚	約 640 枚	約 880 枚
512MB	約 800 枚	約 1,280 枚	約 1,760 枚

（枚数は目安です）

- 他の機器で使用したカードは、使えないことがあります。
- カードに動画や音楽のデータが記録されていても、本機で見たり聴いたりすることはできません。また、そのようなファイルの表示もできません。
- 残量表示で、カードの残量を確認してからご使用ください（☞ P.129「残量表示」）。
- 本機で記録したデータを他機で再生する場合は、すべてのデータを再生できないことがあります。

静止画の画質について

本機で撮影できる JPEG 静止画の画像サイズは、以下の通りです。

機種＼設定	カメラ	外部入力
DZ-MV350	640 × 480 画素	640 × 480 画素
DZ-MV380	1,280 × 960 画素	640 × 480 画素

DVD-RAM ディスクをお使いのときは、画質を切り替えることはできません。
カードをお使いのときは、画質を切り替えることができます（P.85）。

カードをお使いのときの JPEG 静止画 1 枚のファイルサイズおよび記録画質は、以下の通りです。

画　質	ファイルサイズ		こんなときにお使いください
	DZ-MV350	DZ-MV380	
FINE	約 128KB	約 512KB	画質重視のとき
NORM	約 64KB	約 384KB	標　準
ECO	約 32KB	約 256KB	枚数重視のとき（画質はやや劣ります）

※記録できる枚数は、P.28 を参照してください。

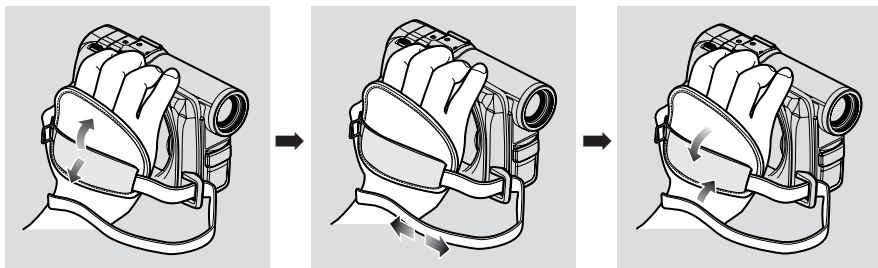
- DVD-R ディスクには、静止画は記録できません。

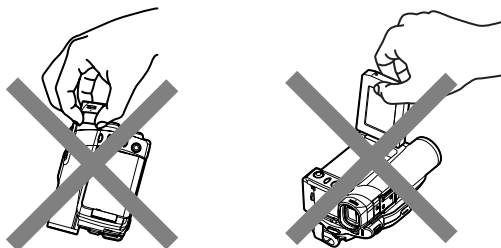
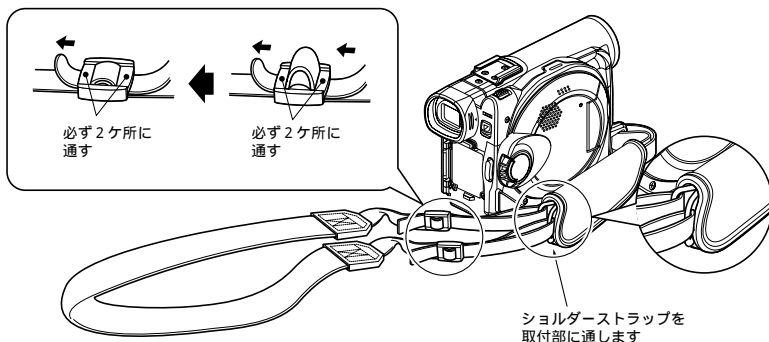
本体の準備

グリップベルトの調整

本機の下側から、グリップベルトに右手を差し入れる

「録画」ボタン、ズームレバーが押しやすい位置にしてください。

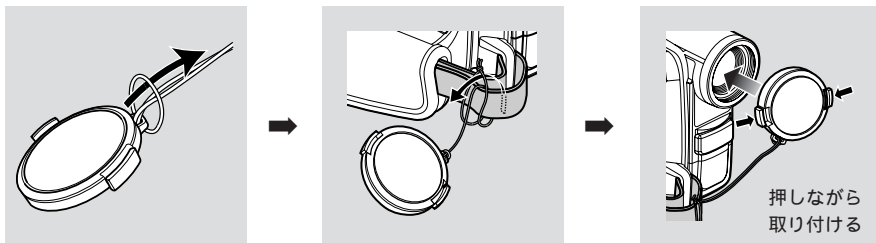
本機がぐらついたり、グリップベルトがきついときは、グリップベルトの長さを調節してください。

ご注意

- ビューファインダーや液晶モニターをつかんで持ち上げないでください。ビューファインダーや液晶モニターが外れて、本機が落下することがあります。

ショルダーストラップを取り付ける

レンズキャップを取り付ける

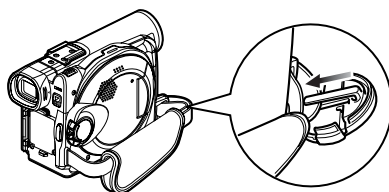
付属のひもをレンズキャップの穴に通し、本体のグリップベルトに取り付けます。

1 レンズキャップ用のひもをレンズキャップに取り付ける

2 ひもを本機のグリップベルトに取り付ける

3 レンズキャップの両サイドを押しながらレンズに取り付ける

- 本機を使用しないときは、レンズ保護のために必ずレンズキャップを付けてください。

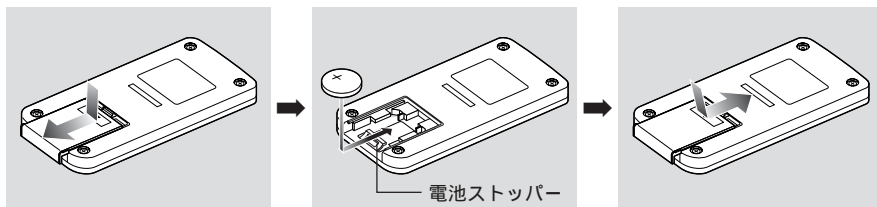
ヒント

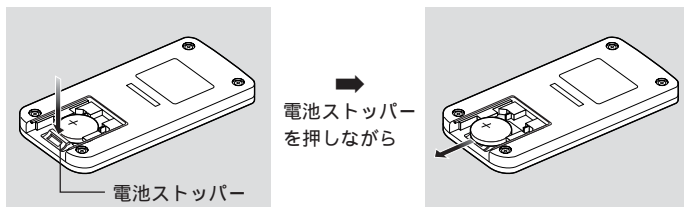
- 撮影するときは、レンズキャップ内側のつめを使用してハンドストラップに取り付けておくと便利です。

リモコンに電池を入れる

リモコンは、付属のリチウム電池を入れて使用します。

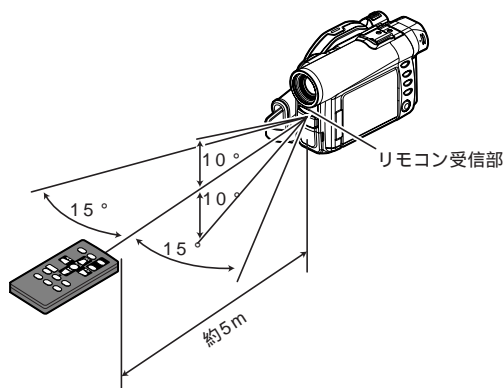
1 ふたをスライドしてとる

2 ⊕（プラス）面を上にして入れる

3 ふたをスライドしてとじる

リモコンから電池を取り外す

1 電池ストッパーを押しながら電池をスライドさせる。

- 取り外した電池の取り扱いについては、P.8 をご覧ください。

●リモコンの使いかた

リモコンは本機のリモコン受信部に向けて操作してください。リモコンの操作可能距離は、約 5m です。

- リチウム電池の寿命は約 1 年です。電池が消耗すると、リモコンのボタンを押しても本機が動作しなくなります。その場合は、新しい電池にお取り換えください。
- リモコンで操作するときは、本機のリモコン受信部が直射日光や強い照明などに向かないようにご注意ください。リモコン受信部にリモコンの赤外線よりも強い光が当たっていると操作できません。
- リモコンと本機のリモコン受信部との間に障害物があると、正常に動作しない場合があります。
- リモコンコードは日立製ビデオのリモコンコード「VTR2」です。日立のビデオなどをリモコンコード「VTR2」でお使いのときは、ビデオもリモコンで動作してしまいますので、ビデオのリモコンコードを別のコードに変更してください。

バッテリーパックの準備

お買い上げ時は､本機に付属のバッテリーパック(DZ-BP14S)は充電されていません。充電してからお使いください。

以下のようなことは危険ですので､絶対に行なわないでください。

- バッテリーパックの端子間をショートさせる。
- バッテリーパックを分解／改造する。
- バッテリーパックを火中に投じる。

- バッテリーパックは、必ず本機専用のもの（DZ-BP14S/DZ-BP14SJ）をお使いください。異なるバッテリーパックをご使用になると、本機が故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- バッテリーパックの充電は必ず指定の AC アダプター／チャージャー（DZ-ACS1）をお使いください。その他の充電器で充電すると、感電したり、火災が起きる可能性があります。
- 充電は、気温が 10℃～ 30℃のところで行なってください。

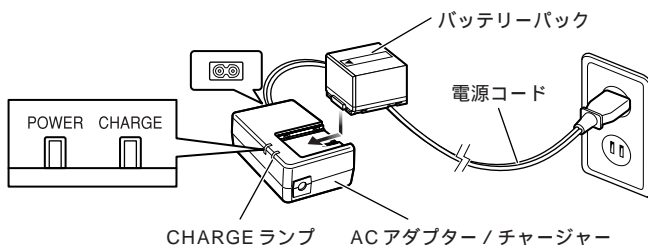
バッテリーパックを充電する

バッテリーパックは、付属の AC アダプター／チャージャーを使って充電します。

1 電源コードを AC アダプター／チャージャーにつなぐ

2 電源コードをコンセントに差し込む

AC アダプター／チャージャーの POWER ランプが点灯します。

3 バッテリーパックを AC アダプター／チャージャーに取り付ける

●バッテリーパックの充電の状態

バッテリーパックの充電状態は、AC アダプター／チャージャーの CHARGE ランプの点灯で確認できます。

充電の状態	CHARGE ランプ
充電中	点灯
充電完了	消灯

• 点滅した場合は、P.180 の「故障かな…と思ったら」をご覧ください。

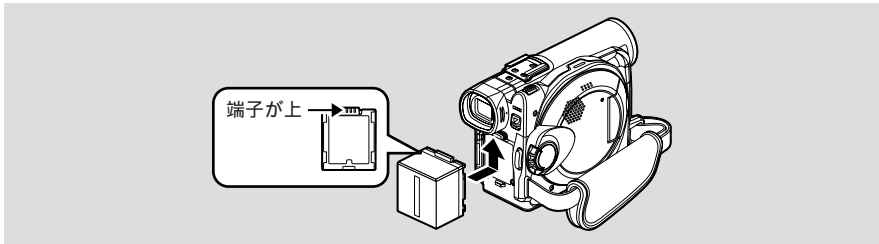
●バッテリーパックの充電時間の目安（約 25℃の場合）

約 165 分

充電時間はバッテリーパックの残量により変わります。

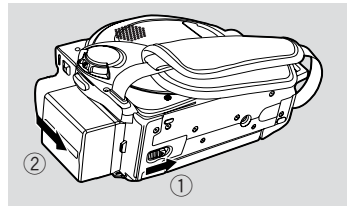
バッテリーパックを取り付ける

1 本機のバッテリーパック取り付け部にバッテリーパックを押しあて、カチッと音がするまで上へずらす

このとき、バッテリーパックの向きをまちがえないように注意してください。

バッテリーパックを取り外す

1 本体底面にある「BATTERY EJECT」スイッチをスライドさせる

バッテリーパックが外れます。

このとき取り外したバッテリーパックが落下しないように注意してください。

バッテリーパックでの連続撮影時間

（ズームなどの操作をまったくしない場合）

満充電されたバッテリーパックで連続撮影できる時間は、以下の表を目安にしてください。

DZ-MV350 の場合

記録モード		DVD-RAM ディスク	DVD-R ディスク
XTRA モード＊	ビューファインダー使用時	約 125 分	―
	液晶モニター使用時	約 100 分	―
FINE モード	ビューファインダー使用時	約 125 分	約 125 分
	液晶モニター使用時	約 100 分	約 100 分
STD モード	ビューファインダー使用時	約 145 分	約 145 分
	液晶モニター使用時	約 115 分	約 115 分
LPCM モード＊＊	ビューファインダー使用時	―	約 125 分
	液晶モニター使用時	―	約 100 分

＊　XTRA モードは、DVD-RAM ディスク使用時のみ切り替えられます。
時間は参考値です。記録する内容により録画時間が変わります。
＊＊　LPCM モードは、DVD-R ディスク使用時のみ切り替えられます。

DZ-MV380 の場合

記録モード		DVD-RAM ディスク	DVD-R ディスク
XTRA モード＊	ビューファインダー使用時	約 115 分	―
	液晶モニター使用時	約 95 分	―
FINE モード	ビューファインダー使用時	約 115 分	約 115 分
	液晶モニター使用時	約 95 分	約 95 分
STD モード	ビューファインダー使用時	約 135 分	約 135 分
	液晶モニター使用時	約 105 分	約 105 分
LPCM モード＊＊	ビューファインダー使用時	―	約 115 分
	液晶モニター使用時	―	約 95 分

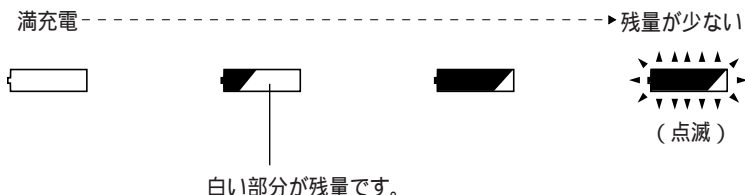
＊　XTRA モードは、DVD-RAM ディスク使用時のみ切り替えられます。
時間は参考値です。記録する内容により録画時間が変わります。
＊＊　LPCM モードは、DVD-R ディスク使用時のみ切り替えられます。

満充電のときの実際の記録時間の目安は、約 40 分～ 60 分です

上記の表に示したバッテリーパックの連続記録時間は、撮影を開始してから、そのまま何も行なわずに撮影し続けた場合の記録時間です。実際の撮影では、「録画」ボタンやズームの操作、再生などを行なうため、バッテリーパックはこの 2 ～ 3 倍消耗します。満充電された 1 個のバッテリーパックの使用時間を約 40 分～ 60 分とお考えのうえ、記録予定時間に見合った数のバッテリーパックをご用意ください。
また、寒冷地でお使いになるときは、バッテリーパックがより早く消耗するので、ご注意ください。

• 充電中や充電直後は、バッテリーパックが温かくなりますが、故障ではありません。

バッテリーパックの残量表示について

バッテリーパックを使用中は、ビューファインダー・液晶モニターにバッテリーパックの残量が次のように表示されます。

バッテリーパックを上手に使うために

お使いになる直前に充電してください

- バッテリーパックは本体から取り外していてもわずかに放電しています。
- バッテリーパックを取り付けたままにしておくと、電源を切っていても、ごくわずかな電力を消費します。

本機の使用後は充電しないで、お使いになる前の日などに充電することをおすすめします。
なお、メモリー効果はありませんので充電する前に放電したり、使い切ったりする必要はありません。

長期間使用しないときは

１年に１回程度満充電し、本機に取り付けた状態で使い切ってから、取り外して涼しい場所に再度保管することをおすすめします。

冷暗所で保管してください

使わないときは、本機から取り外して保管してください。
気温の高い場所で保管すると、バッテリーパックの寿命が短くなります。特に６０℃以上になる環境（閉め切った車内など）で保管すると、バッテリーパックが故障するおそれがありますので、絶対におやめください。

バッテリーパックの寿命について

バッテリーパックの寿命は、ご使用の環境や使用頻度によって大きく異なります。満充電したバッテリーパックの使用時間が著しく短くなったら、寿命と考えられます。新しいバッテリーパックをお求めください。

バッテリーパックの廃棄方法

Li-ion

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

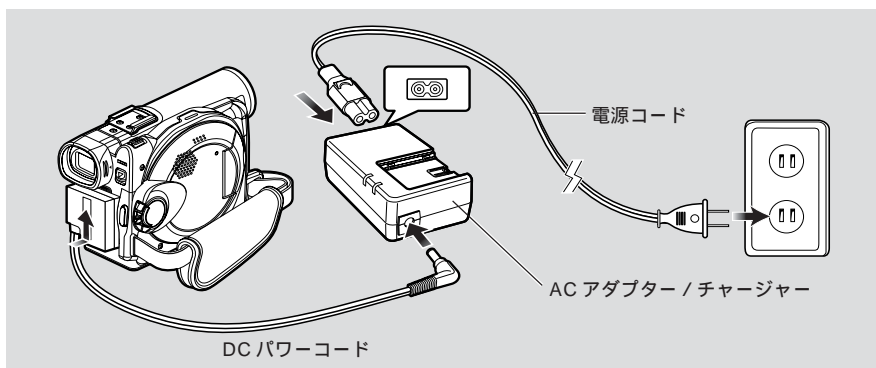
充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店に関する問い合わせ先（2003 年 1 月現在）

ホームページ：http://www.jbrc.com

パワーセーブとバッテリーの消耗

記録一時停止状態のときも、撮影時と同じくらいバッテリーは消耗しますので、撮影時以外はなるべく電源を切るようにしてください。
パワーセーブを設定して、記録一時停止の状態が約 5 分続くと、自動的に電源が切れます。
パワーセーブを設定したり解除する方法は、P.90「パワーセーブ」をお読みください。

コンセントにつないで使う

付属の AC アダプター／チャージャーを使うと、家庭用コンセントが使えます。

1 **電源コードと AC アダプター／チャージャーをつなぐ**

2 **電源コードをコンセントに差し込む**

3 **DCパワーコードの片方の端子をACアダプター／チャージャーのDC出力端子に差し込む**

4 **DCパワーコードのカメラ接続側を、本機のバッテリーパック取付部に取り付ける**

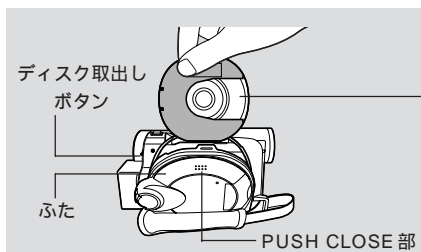
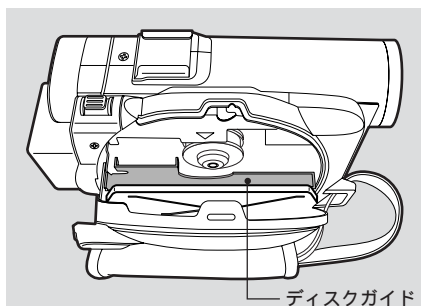
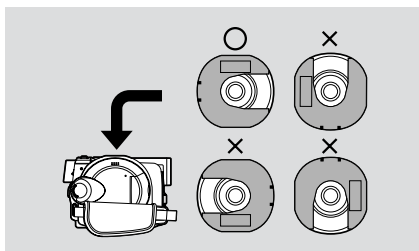
- AC アダプター／チャージャーは、必ず指定のものをお使いください。指定外のACアダプター／チャージャーを使用すると、感電したり火災が起きるおそれがあります。
- DCパワーコードをACアダプター／チャージャーのDC出力端子につないでいる間は、バッテリーパックの充電はできません。DC パワーコードを外してください。

ディスクを入れる／取り出す

ディスクを入れる

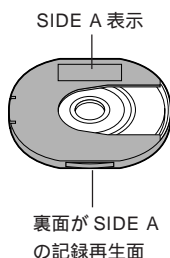
1 **「ディスク取出し」ボタンを 1 回押し下げて手をはなす**
アクセス／PC接続ランプが点滅して、しばらくするとディスク挿入部（グリップベルト側）のふたが少し開きます。

2 **ふたが開くところまで、手でゆっくり開く**

3 **ディスクを丸型ホルダーに入れたまま、正しく奥までディスクガイドに挿入する**
記録再生面を内側にしてください。ディスクの挿入方向は決まっています。下図を参照して、正しく挿入してください。

- **ディスクがむき出しになっている側を図の方向に向けてください。**
- **記録再生面を内側（本体側）にしてください。**

丸型ホルダーを本機に挿入時の
正しい方向と誤った方向

4 **ディスク挿入部（グリップベルト）ふたの「PUSH CLOSE」部を「カチッ」と音がするまで、押して閉じる**

5 **電源を入れる（動画、静止画）**
「ディスク認識中です」の表示が消えれば、準備完了です。

＊ディスクの記録再生面とは

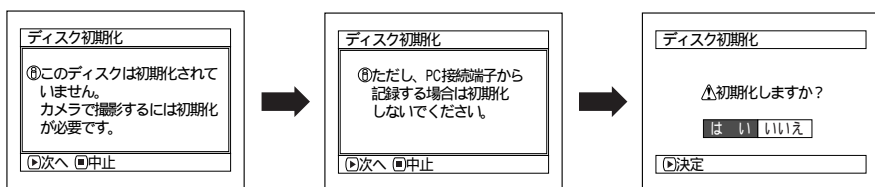
- 片面ディスクの場合
  レーベル印刷面の反対側が記録再生面です。
- 両面ディスクの場合
  「SIDE A」表示面の反対側が「SIDE A」の記録再生面です。
  「SIDE A」と表示されている面が「SIDE B」の記録再生面です。

- ディスクを丸型ホルダーにセットしたい（☞ P.73）。
- 撮影するまでに時間がかかる（☞ P.173）

- ディスクの出し入れは、バッテリーパックが取り付けてあるか、ACアダプター／チャージャーを使ってコンセントから電源をとっていないとできません。
- ディスクを挿入する方向は決まっています。誤った方向に無理に挿入すると、本機や丸型ホルダーが破損するおそれがあるので、ご注意ください。
- ディスクが正しく挿入されないとふたが閉まりにくくなります。無理に閉めようとすると故障の原因になりますので、正しく挿入し直してください。
- 片面ディスクの場合、レーベル印刷面を内側にして本機に挿入すると、エラーメッセージが表示されます。いったん取り出して、記録再生面を内側にしてもう一度挿入してください。P.174 の「メッセージが表示されたら」を参照してください。

●新品の DVD-R ディスクをお使いの場合

ディスクの認識を開始します。
終了後、ディスク初期化のメッセージが表示されます。

本機で撮影に使う場合

最後に「初期化しますか？」と表示されたときに「はい」を選び、決定してください。自動的に初期化されます。
終了後、「DVD-R ディスクの場合、いったん記録した後の動画画質の変更はできません」と表示されます。▶/II を押してメッセージを消してください。
＊ パソコンからデータを記録することはできなくなります。
＊ 動画画質については、P.84「動画画質」をご覧ください。

パソコンからのデータを記録する場合（☞ P.158）

メッセージが表示されているときに□（停止／キャンセル）ボタンを押すか、「初期化しますか？」と表示されたときに「いいえ」を選び、決定してください。
＊ パソコンからの記録をしていない場合は、電源を入れ直すかディスクを入れ直すと、新品のディスクを入れたときと同じ状態になり、ディスクの認識から始まります。

- パソコンのアプリケーション（MyDVD）からの記録をする場合は、初期化しないでください。

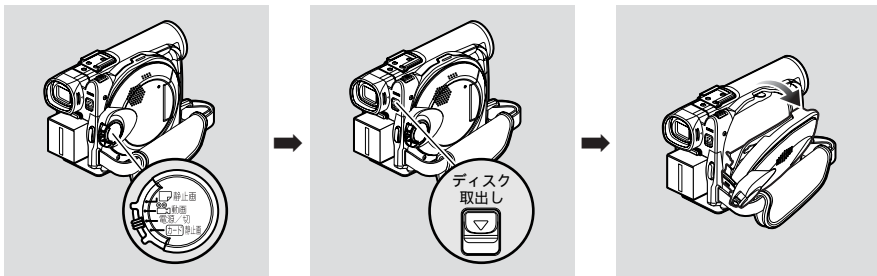
ディスクを取り出す

1 電源を切る

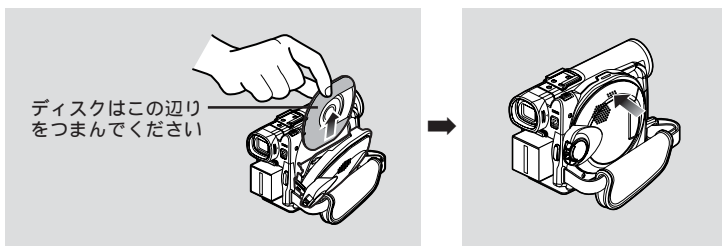
電源スイッチを「電源／切」に合わせます。

2 「ディスク取出し」ボタンを 1 回押し下げて手をはなす

しばらくするとディスク挿入部（グリップベルト）のふたが少し開きます。

3 ふたが開くところまで、手でゆっくり開く

4 ディスクを取り出す

丸型ホルダーの上部をつまむように持ち、まっすぐ静かに引き出してください。
このとき、ディスクに触れないよう、注意してください。

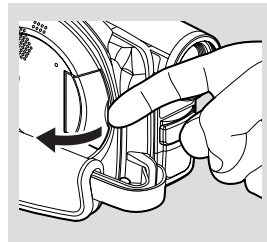
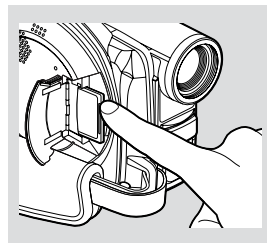
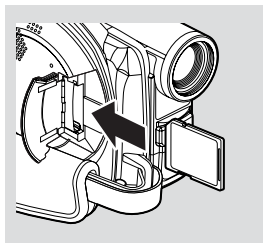
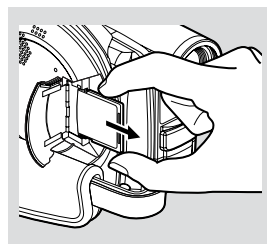
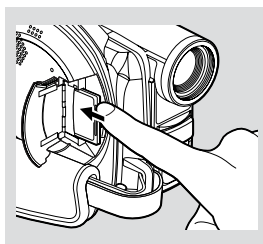
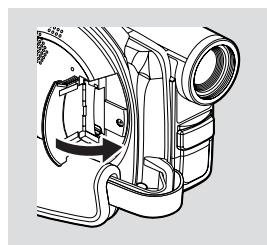
5 ディスク挿入部（グリップベルト）のふたの「PUSH CLOSE」部を「カチッ」と音がするまで、ゆっくり押して閉じる

- ディスクの出し入れは、誤操作防止のため、電源を切ることをおすすめします。
- 電源が入っていても記録中でなければ、ディスクを取り出すことができます。
「ディスク取出し」ボタンを約 2 秒押し下げてはなすと、ディスクが取り出せます（このとき、液晶モニターまたはビューファインダーの「EJECT」表示が点滅します）。

ご注意

- 確実に電源が切れるまでバッテリーパックまたは AC アダプター／チャージャーを取り外さないでください。
- 電源を切るには、電源スイッチで行なってください。
- ディスク挿入部には、8cmDVD-RAM ディスクまたは 8cmDVD-R ディスク以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを出し入れするときには、カメラの内部（特にレーザーピックアップ部のレンズ）に触れないよう、ご注意ください。
- ディスクを出し入れするときには、充電されたバッテリーか AC アダプター／チャージャーを本機に接続してください。電源がない状態では、ふたは開きません。

カードを入れる／取り出す

カードを入れたり取り出すときには、電源を切ってください。

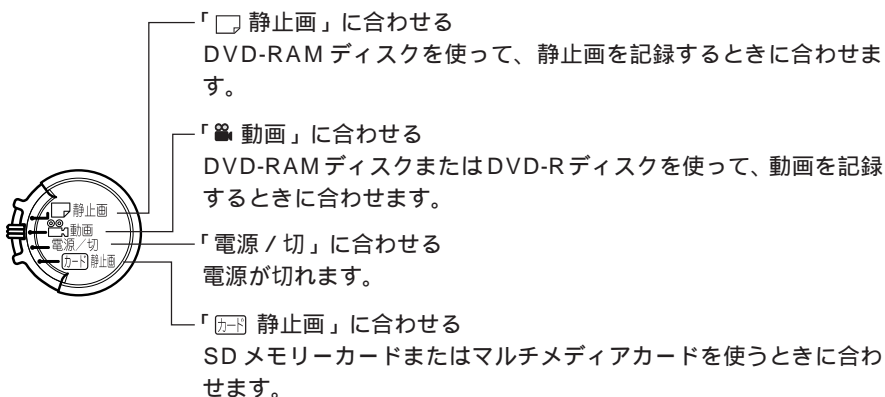
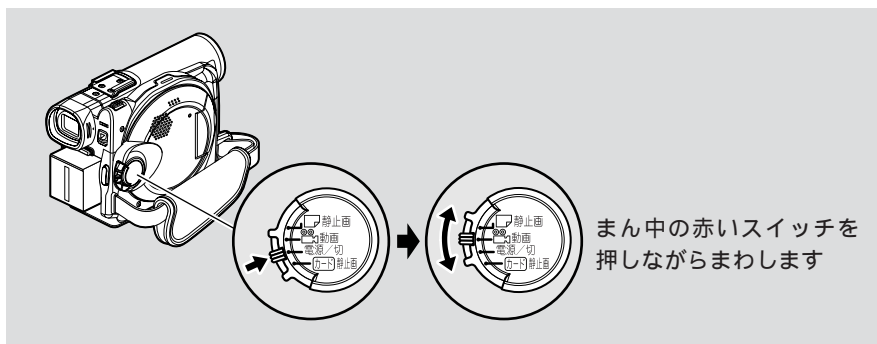
1 電源を切った状態で、カード挿入部のふたをあける

2 カードを入れる
端子部が内側になるように差し込んでください。
ロックされるところまで差し込んでください。

カードを取り出す
カード中央部を押してください。
指ではさめるくらいカードが出てきます。

3 カード挿入部のふたを閉じる

ビデオカメラの基本的な扱いかた

電源を入れる／切る

「静止画」に合わせる
DVD-RAM ディスクを使って、静止画を記録するときに合わせます。

「動画」に合わせる
DVD-RAMディスクまたはDVD-Rディスクを使って、動画を記録するときに合わせます。

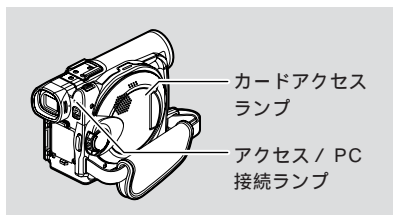
「電源／切」に合わせる
電源が切れます。

「カード 静止画」に合わせる
SD メモリーカードまたはマルチメディアカードを使うときに合わせます。

再生する場合は、ディスクをお使いのときは「動画」または「静止画」、カードをお使いのときは「カード 静止画」に合わせてください。

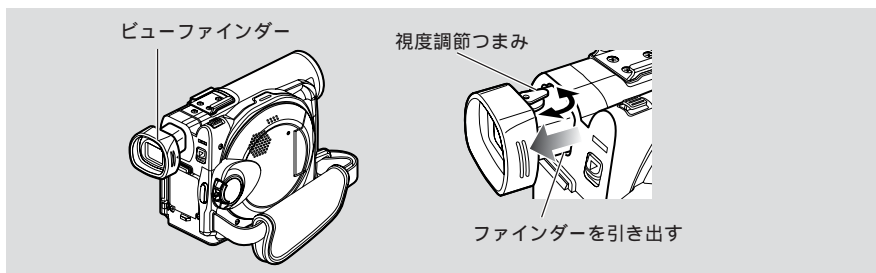
ヒント

- 一度電源を入れてディスクを認識させておくと、次に電源を入れたとき、すぐに記録ができます。
- 電源を入れたあとに、ディスクを取り出したり入れ替えたときや、日付が変わったときなどは、ディスクを認識しなおすので、時間がかかります（☞ P.173）。
- 電源を入れたあとにディスクナビゲーション画面を表示させるには、しばらく時間がかかります。

- 電源を入れるとアクセスランプが点灯または点滅し、ディスクやカードの認識をします。この間は録画などの操作はできません。
  数秒後にアクセスランプが消灯し操作ができるようになります。
  −アクセスランプが消灯しない（☞ P.173）

- 電源を入れたときに本機の自己診断機能が働き、メッセージが表示されることがあります。表示されたときは、P.174の「メッセージが表示されたら」をご覧になり、正しく対処してください。
- アクセスランプが点灯または点滅しているときは、液晶モニターの激しい開閉はしないでください。

ビューファインダーで映像を見る

1 ビューファインダーを引き出す

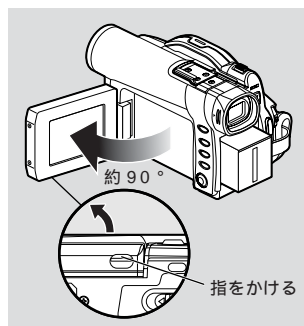
2 視度調節つまみを動かして調節する

- 液晶モニターが開いているときは、ビューファインダーには何も表示されません。
- ビューファインダーを引き出さないとピントが合いません。

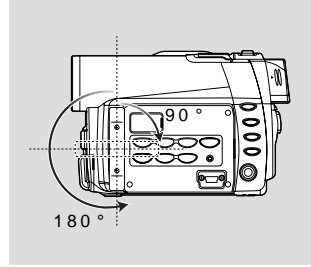
液晶モニターで映像を見る

液晶モニターを開くと、液晶画面で映像を確認できるようになります。

1 液晶モニターを開く

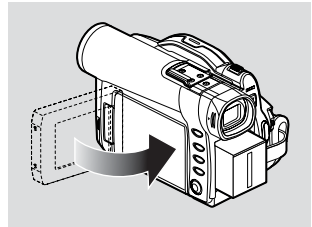
液晶モニターの底部に指をかけるところがあります。
その部分に指をひっかけて開いてください。
液晶モニターは約９０°まで開くことができます。
液晶画面が見やすくなるように、角度をかえてください。

ビデオカメラの基本的な扱いかた

●液晶モニターの動く範囲

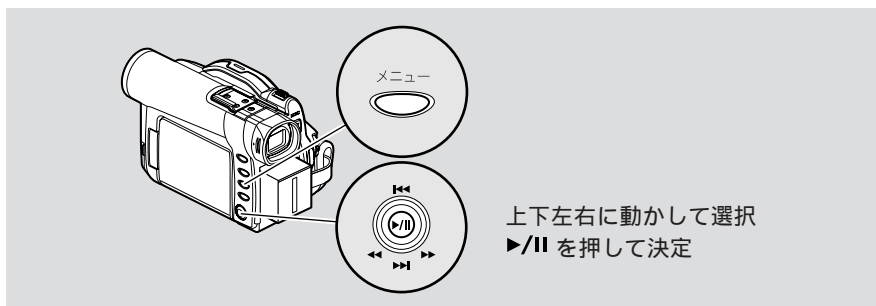
液晶モニターは、約９０°まで開くことができます。この状態で手前へ約９０°、反対側へは約１８０°まで回転させることができます。
撮影時に液晶モニターを約180°回転させて前に向けると、ビューファインダーにも映像が表示されます。このとき液晶モニターの映像は鏡のように左右反対に映ります（☞ P.60）。

- 液晶モニターの角度を変えるときは、必ず液晶モニターが約90°開いた状態で行なってください。
- 液晶モニターを約180°回転させた状態で本体に密着させて、長時間撮影することはおやめください。本体と液晶モニターが熱くなり、故障の原因になります。

液晶モニターを閉じる

1 液晶モニターを内側に向けて、本体側へ倒す

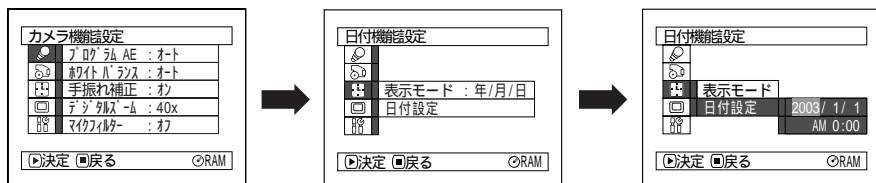
液晶モニターを閉じるときは、液晶モニターを本機と垂直（開いたときの状態）にしてから閉じます。
「カチッ」とロックされるまで閉じてください。

- 液晶モニターを閉じるときは、必ず本機と液晶モニターを垂直にしてから閉じてください。液晶モニターが傾いていると、本機側へ閉じることはできません。
- 液晶モニターが本機にしっかりロックされないと、ビューファインダーには何も表示されません。

日付と時刻を設定する

日付と時刻を設定してください。
一度設定した日付や時刻を修正する場合も、下記の手順で同様に行なえます。

1 電源を入れる

2 「メニュー」ボタンを押す
メニュー画面が表示されます。

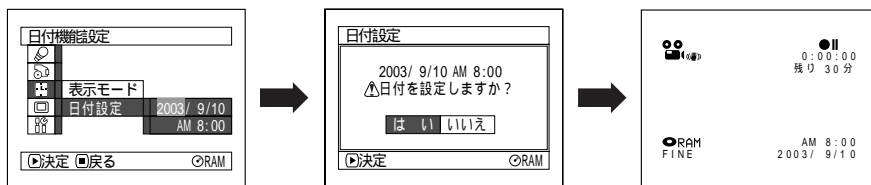
3 ジョイスティックを上下に動かして「日付機能設定」を選ぶ

4 ジョイスティックを右→下に動かして「日付設定」を選ぶ

5 ジョイスティックを右に動かして「年」に合わせ、上下に動かして数字を変更する

6 ジョイスティックを右に動かして「月」に合わせ、上下に動かして数字を変更する
同様の手順で「日」「時刻」を希望の数字に設定してください。
設定を途中でやめたい場合は、□(停止／キャンセル）ボタンを押してください。

7 希望の日付と時刻にしたら ▶/II を押して決定する
「日付設定」の確認画面が表示されます。

8 表示してある日付と時刻でよければ「はい」を選び、▶/II を押して決定する

日付が設定され、記録一時停止状態に戻ります。
「いいえ」を選ぶと、メニュー画面に戻ります。

- 本機は、日付と時刻を記憶しておくための充電式電池を内蔵しています。
  内蔵電池がなくなると日付がリセットされてしまいます。3ヶ月に1回、ACアダプター／チャージャーを本機と接続してコンセントにつなぎ、電源を切ったまま24時間以上接続した状態にしておいてください。内蔵電池が充電されます。

●表示モードを切り替える

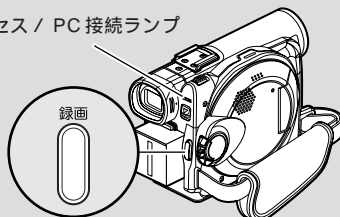
日付の表示方法を、「年／月／日」、「月／日／年」、「日／月／年」のどれかに変更できます。選択した日付の表示方法に応じて、時刻の表示方法も変わります。手順4で「表示モード」を選び、希望の表示にしてください。
日付と時刻の表示方法は、以下のような組み合わせになります。

日付の表示方法	表示方法
年／月／日	2003/9/30 PM5:00
月／日／年	9/30/2003 5:00PM
日／月／年	30/9/2003 17:00

RAM　R

動画を撮る

始める前に

- 試し撮りは録画した内容を消去できるDVD-RAMディスクをおすすめします（☞ P.23）。

1 電源を入れる

電源スイッチを「🎥 動画」に合わせてください。
アクセス／PC接続ランプが消灯してから、次の操作をしてください。

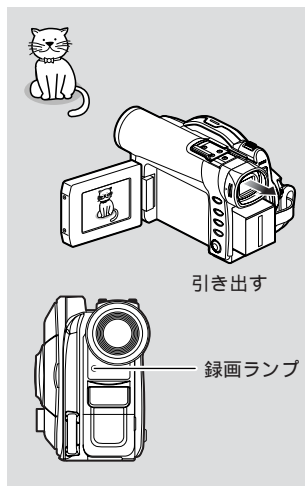
2 本機を被写体に向ける

ビューファインダーまたは液晶モニターで映像を確認してください。
ビューファインダーご使用の場合は､引き出してご使用ください。

3 「録画」ボタンを押す

ビューファインダーまたは液晶モニターの「●II」が「●記録」に変わり、録画が開始します。
また､録画ランプが赤く点灯して､録画中であることをお知らせします。

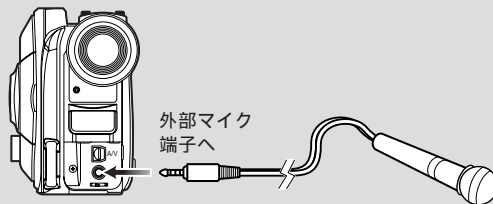
4 もう一度､「録画」ボタンを押す

録画一時停止します。
「ディスクに保存中です」という表示が消えると､録画終了です。

ヒント

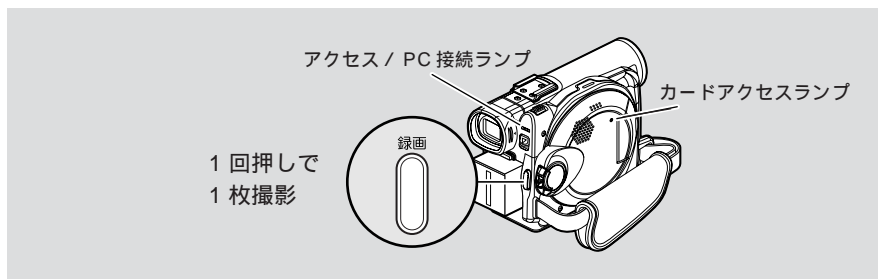
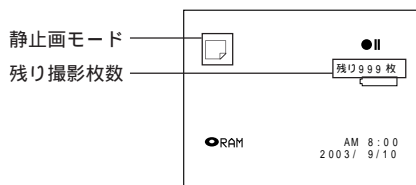
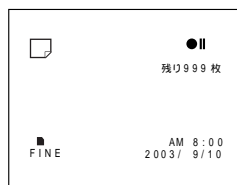
- 動画の録画ができない（☞ P.172）
- 録画するまでに時間がかかる（☞ P.173）
- 画面表示について（☞ P.58）

- 録画一時停止にしたあと、すぐに「録画」ボタンを押したときは録画できますが、「ディスクに保存中です」とメッセージが表示されている間は録画されません。メッセージが消えたあとから録画されます。
- 動画の最短録画時間は、約 3 秒です。
- 音声は本機の前面にあるステレオマイクから録音されます。ふさがないよう、気をつけてください。
- カウンター表示は、録画一時停止ごとに 0:00:00 にリセットされます。
- DVD-R ディスクをご使用の場合は、本機で録画した DVD-R ディスクに、他の機器で追加録画したり、他の機器で録画した DVD-R ディスクに、本機で追加録画しないでください。データが読み出せなくなる場合があります。

外部マイクを使う

市販の外部マイクを接続して録画すると、よりクリアな音声を録画できます。市販のマイクを、本機の外部マイク接続端子に接続します。マイクのスイッチを入れてから録画を開始してください。
マイクの仕様については「主な仕様」（☞ P.190）を参照してください。

- AV ／ S 入出力ケーブルをお使いの場合は、外部マイクをご使用できません。AV ／ S 入出力ケーブルを抜いて外部マイクをご使用してください。
- プラグインパワータイプ（カメラから電源を供給するタイプ）のマイクはご使用できません。

RAM カード

静止画を撮る

1 電源を入れる
DVD-RAM ディスクをお使いのときは「 静止画」に合わせてください。
カードをお使いのときは「 静止画」に合わせてください。
アクセスランプが消灯してから次の操作をしてください。

（DVD-RAM ディスクご使用時）

（カードご使用時）

2 本機を被写体に向ける
ビューファインダーまたは液晶モニターで映像を確認してください。

3 「録画」ボタンを押す
画面がいったん黒くなり、その後録画された画面が表示されます。●IIになったら、次の録画ができます。
「ディスクに保存中です」と表示されている間は、次の録画はできません。

4 電源を切る

ヒント

- 静止画についての詳しい内容は P.29「静止画の画質について」をご覧ください。

ご注意
- アクセスランプが点灯または点滅しているときは、電源操作やカードの取り出しなどを行なった場合、カードの破損やカード内のデータが破壊されることがあります。
- DZ-MV380 は、動画撮影時と静止画撮影時では、撮影できる画面の範囲が変わります。

●ビデオフラッシュ*について（☞ P.167）

薄暗いところや逆光時の静止画撮影するときは、ビデオフラッシュ（DZ-FLH3）の使用をおすすめします。使いかたはビデオフラッシュの取扱説明書をご覧ください。

ビデオフラッシュの設定	本機の画面表示	発光方法
AUTO	表示なし	薄暗いところや逆光時に自動的に発光
ON		明るさにかかわらず、常時発光
OFF		強制禁止

* DZ-MV350では、使用することができません。

- シャッタースピードは、被写体の明るさに応じて 1/800～1/30 秒（プログラムAEの設定をローライトモードに設定しているときは、1/800～1/10秒）の間で自動的に設定されます（プログラム AE（☞ P.78））。
- 静止画の撮影時には、「手振れ補正」は機能しません。
- 静止画の画質を変える（☞ P.85「静止画画質」）。
- ビデオフラッシュを使用しても薄暗いところでは、ピントが合わないことがあります。薄暗いところでの撮影には、ライトで被写体に光を当てることをおすすめします。

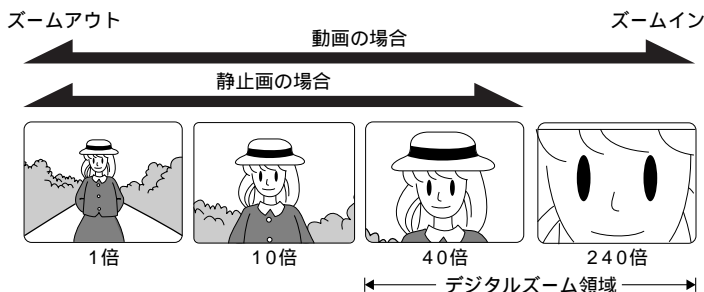
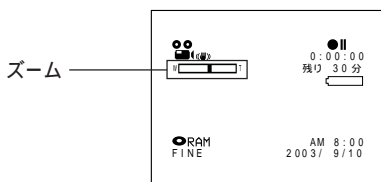
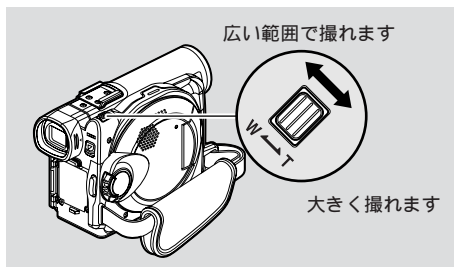
RAM R カード

ズームの操作

本機では、光学10倍ズームとデジタルズームを使った撮影ができます。

1 ズームレバーを動かす

「T」側に動かすと望遠に、「W」側にすると、広角になります。
デジタルズームが設定されているときは（☞ P.82）、ズームレバーを「T」側に倒し続けると、途中からデジタルズームになります。

ズーム

ヒント

- 短時間に頻繁に倍率を変えると、映像が見づらくなります。

ご注意

- デジタルズーム240倍の設定は、動画モードのみ有効です。
- 静止画撮影時は、240倍の設定をしても最大40倍までのデジタルズームになります。
- ズームを行なったときに、一瞬ピントがずれることがあります。
- デジタルズームが加わると、画質が粗くなります。

至近距離からの撮影（接写）

小さい被写体を至近距離から撮影するときは、レンズ面に約 2cm まで近づいて、画面いっぱいに拡大して撮影できます。

1 被写体に本機を向け、ズームレバーを「W」側いっぱいにする

- 接写をするときは光量不足になりがちです。画面が暗いときは、被写体に照明を当ててください。

ご注意
- ズームは使用できますが、被写体までの距離により、ピントが合わなくなることがあります。

より広角に、より望遠で撮影する

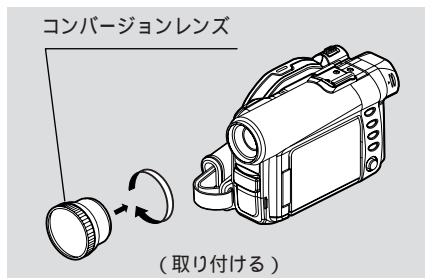
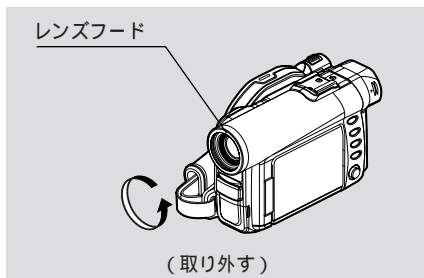
テレコンバージョンレンズやワイドコンバージョンレンズ（☞P.167）をお使いになると、より広角に、より望遠で撮影することができます。フィルター径は、以下のものをご使用ください。レンズ先端のレンズフードを外し、取り付けてください。

DZ-MV350：30.5mm　　DZ-MV380：37mm

1 本機のレンズフードを外す

2 コンバージョンレンズのレンズキャップを外し、本機のフィルターネジに最後までねじ込む

（取り外す）

（取り付ける）

DZ-MV380 をお使いの場合は、オプションのコンバージョンレンズを使用できます。

- テレコンバージョンレンズ（DZ-TL1）............. より望遠で撮影するときにご使用ください。
- ワイドコンバージョンレンズ（DZ-WL1）......... より広角で撮影するときにご使用ください。

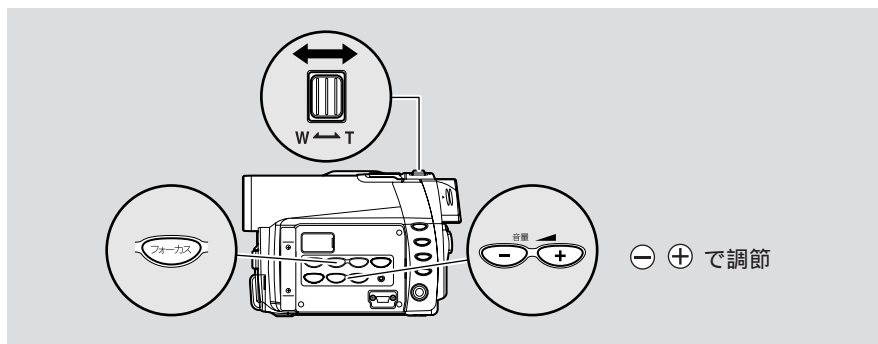
- 取り外したレンズフードは、紛失しないようにご注意ください。
- テレコンバージョンレンズ（DZ-TL1）を装着した場合は、T 端（望遠側）のピントの合う範囲が約 5m から無限遠になります。
- コンバージョンレンズを装着した場合は、ズームしたときに W 側（広角側）で多少ケラレます（画面の四隅が暗くなります）。

RAM　R　カード

ピントを手動で合わせる（マニュアルフォーカス）

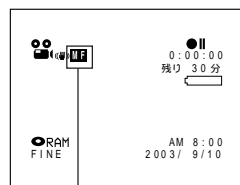
本機は、画面中央にある被写体までの距離に応じて、自動でピントが合うようになっています（オートフォーカス）。
自動でピントが合いにくいときは、手動でピントを合わせることができます（マニュアルフォーカス）。

●ピントの合う範囲

- T側（望遠側）では、レンズ面より約1mから無限遠
- W側（広角側）では、レンズ面より約2cmから無限遠

1 **撮影時に、「フォーカス」ボタンを押す**
画面に「MF」と表示されます。
「フォーカス」ボタンを押すたびに、「マニュアルフォーカス」と「オートフォーカス」が切り換わります。「オートフォーカス」のときは、画面には何も表示されません。

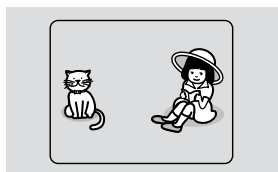
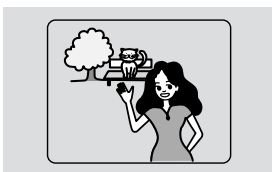
マニュアルフォーカスの表示

2 **ズームレバーを「T」側に倒す**
被写体を大きく写します。

3 **⊖ ⊕ ボタンでピントを調整する**
ビューファインダーや液晶モニターで映像を確認しながら調整してください。

ご注意
- 手動でピントを合わせるときは、必ず被写体を大きく写して行なってください。W側のほうでピントを合わせると、T側にしたときにピントがずれることがあります。

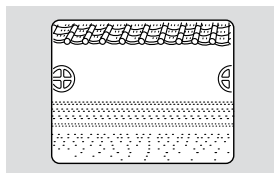
ヒント

- マニュアルフォーカスの設定は、電源を切ると「オート」に戻ります。

オートフォーカス使用時に、次のようなときは、ピントが合わないことがありますので、手動でピントをあわせてください。

①中央に被写体がないとき

②遠くと近くの両方に被写体があるとき

③ネオンサインやスポットライトなど、輝いたり、強い光が反射するもの

④ 水滴や汚れの付いたガラス越しの被写体

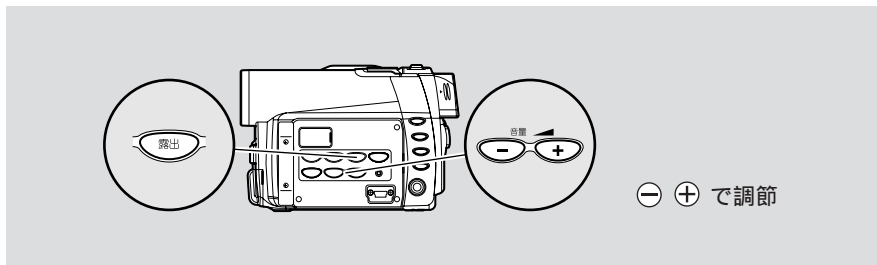
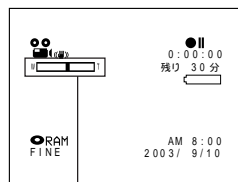
⑤ 動きの速い被写体

⑥白い壁など明暗差がほとんどない被写体

⑦ 暗い被写体

⑧ 夜景

RAM R カード

露出を調整する

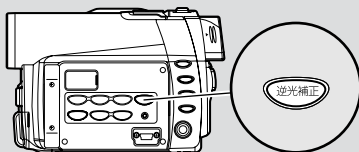
本機は、周囲の明るさに応じて自動で露出を調整するようになっていますが、手動で露出を調整することもできます。

1 撮影時に、「露出」ボタンを押す
画面に露出インジケータが表示されます。

露出インジケータ

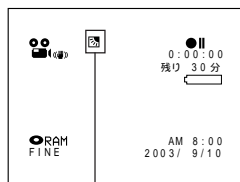
2 ⊖ ⊕ ボタンで調整する
ビューファインダーや液晶モニターで映像を確認しながら、調整してください。

ヒント

- 「露出」ボタンを押すたびに、手動調整と自動調整が切り替わります。自動調整のときは、画面には何も表示されません。
- 露出の設定は、電源を切ると元に戻ります。

逆光を補正する

逆光のとき、被写体が暗くならないように補正できます。

1 撮影時に「逆光補正」ボタンを押す

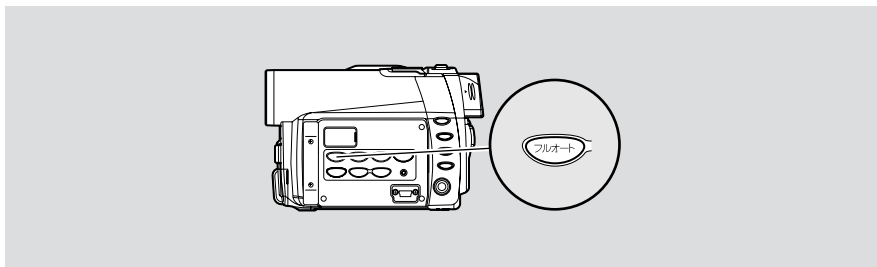
逆光補正アイコンが表示されます。

逆光補正アイコン

ヒント

- 「逆光補正」ボタンを押すたびに、オン／オフが切り替わります。
- 「逆光補正」の設定は、電源を切ると「オフ」に戻ります。

RAM R カード

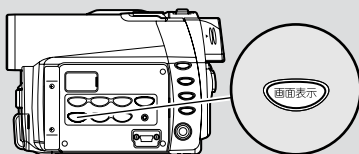
オートで撮影する（フルオート）

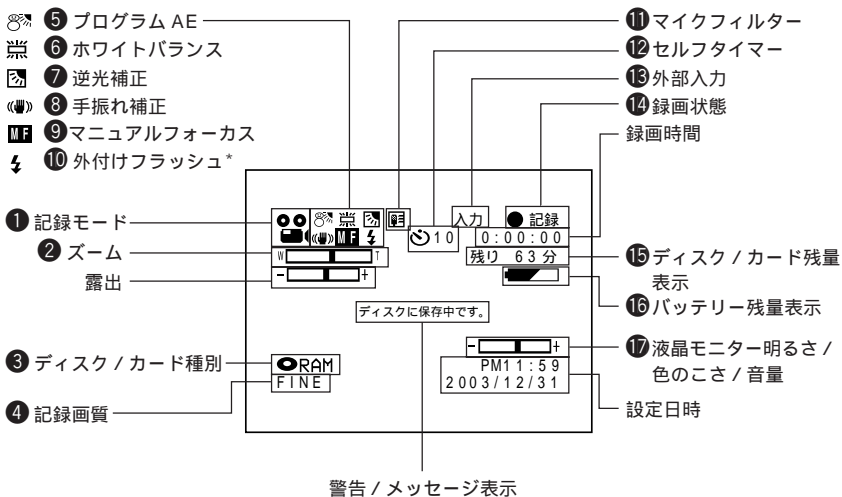
「フルオート」ボタンを押すと、カメラの設定をフルオートにします。

1 「フルオート」ボタンを押す

以下の設定が初期値に戻ります。

機　能	フルオート設定時
プログラムAE	オート
ホワイトバランス	オート
露　出	オート
逆光補正	オフ
フォーカス	オート
手振れ補正	オン
マイクフィルター	オフ

画面表示について

ビューファインダーや液晶モニターには、撮影時のいろいろな情報が表示されます。
画面表示ボタンを押して、すべての情報を表示したり、一部表示にしたりできます。

撮影時の表示について

詳細については次ページをご覧ください。

＊ DZ-MV350 では、表示されません。

- 上記の画面は説明の例です。実際の表示とは異なります。

❶ 記録モード

- ：動画
- ：静止画
- ：外部入力 静止画 フィールド
- ：外部入力 静止画 フレーム

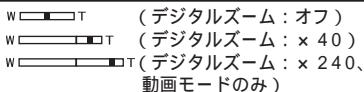
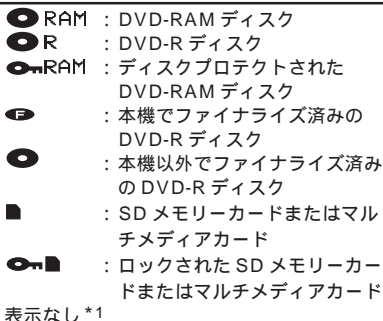
❷ ズーム

- W▭T （デジタルズーム：オフ）
- W▭T （デジタルズーム：× 40）
- W▭T （デジタルズーム：× 240、動画モードのみ）

❸ ディスク／カード種別

- RAM ：DVD-RAM ディスク
- R ：DVD-R ディスク
- RAM ：ディスクプロテクトされた DVD-RAM ディスク
- ：本機でファイナライズ済みの DVD-R ディスク
- ：本機以外でファイナライズ済みの DVD-R ディスク
- ：SD メモリーカードまたはマルチメディアカード
- ：ロックされた SD メモリーカードまたはマルチメディアカード

表示なし *1

❹ 記録画質（ディスク使用時のみ）

- XTRA ：最高画質（DVD-RAM ディスク使用時のみ）
- FINE ：高画質
- STD ：標準
- LPCM ：高音質（DVD-R ディスク使用時のみ）

静止画記録画質（カード使用時のみ）

- FINE ：高画質
- NORM ：標準
- ECO ：枚数重視

❺ プログラム AE

- 表示なし：オート
- ：スポーツ
- ：ポートレート
- ：スポットライト
- ：サーフ&スノー
- ：ローライト

❻ ホワイトバランス

- 表示なし：オート
- ：セット
- ：屋外
- ：屋内
- ：蛍光灯

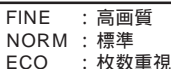
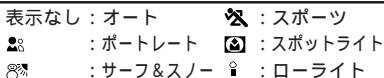
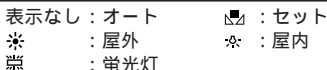
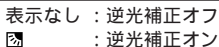
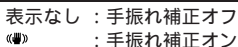
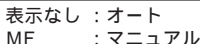
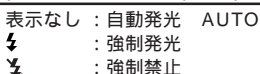
❼ 逆光補正

- 表示なし：逆光補正オフ
- ：逆光補正オン

❽ 手振れ補正（動画モードのみ）

- 表示なし：手振れ補正オフ
- ：手振れ補正オン

❾ マニュアルフォーカス

- 表示なし：オート
- MF ：マニュアル

❿ 外付けフラッシュ *2（静止画モードのみ）（ビデオフラッシュ（別売）取り付け時）

- 表示なし：自動発光 AUTO
- ：強制発光
- ：強制禁止

⓫ マイクフィルター（動画モードのみ）

- 表示なし：マイクフィルターオフ
- ：マイクフィルターオン

⓬ セルフタイマー（静止画モードのみ）

- 表示なし：セルフタイマーオフ
- ：セルフタイマーオン 10 秒よりカウント

⓭ 外部入力

- 入力 ：AV 入力
- S 入力：S ビデオ入力

⓮ 録画状態

- ● 記録：記録中
- ●‖ ：記録一時停止中

表示なし *3

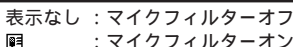
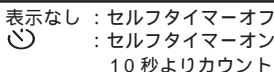
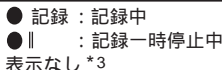
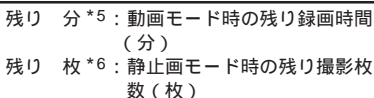
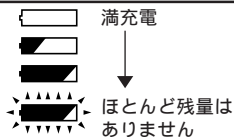
⓯ ディスク／カードの残量 *4

- 残り○分 *5：動画モード時の残り録画時間（分）
- 残り○枚 *6：静止画モード時の残り撮影枚数（枚）

⓰ バッテリー残量表示

満充電

↓

ほとんど残量はありません

⓰ 液晶モニター明るさ／色のこさ／音量

音量の調節は外部入力時と再生時のみ有効です

＊1： 本機では使えないディスクやカードが入っていると表示されません。
＊2： DZ-MV350 では、表示されません。
＊3： ディスクやカードを入れていない状態や、初期化されていないディスク、プロテクトされたディスクやロックされたカード、残量がないディスクやカードが入っている状態のときは表示されません。
＊4： プロテクトされたディスクやカード、ファイナライズした DVD-R ディスクは、残量が表示されません。
＊5： XTRA モードで撮影した場合、表示より長く撮影できることがあります。
＊6： 表示される枚数は目安です。撮影条件によっては、減る枚数が合わないことがあります（DVD-Rディスクをお使いのときは表示されません）。

●画面表示モードを切り替える

「画面表示」ボタンを押して、表示モードを切り替えることができます。

①：すべての情報が表示されます。

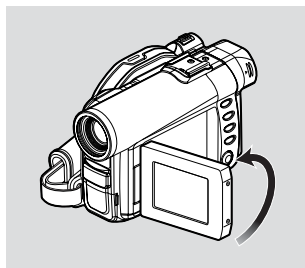
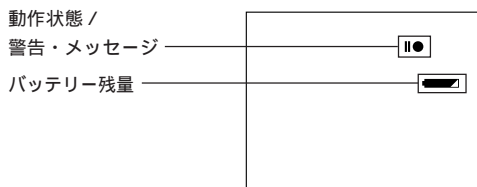
②：記録モード・カメラの状態表示が表示されます。
警告がある場合には警告表示されます。

①と②が交互に入れ替わります。

ヒント

- 日付や時刻は映像には録画されません。ただし、データとして記録されていますので、再生時やディスクナビゲーション画面で確認できます。

●対面撮影時の画面表示について

液晶モニターには、動作状態とバッテリー残量が表示されます。
ただし、バッテリー残量表示は、バッテリーの残りがほとんどなくなったときのみ点滅表示します。

警告やメッセージは、下記の動作状態を点灯や点滅によりお知らせします。液晶画面を対面撮影状態から１８０°回転して元に戻すと、メッセージが確認できます。

- ● ： ディスクの残量がほとんどありません
- (鍵マーク) ： ディスクプロテクトされたディスク、またはロックされたカードが入っています
- (ディスクマーク) ： DVD-R ディスクを使って静止画を録画しようとしています
- 表示なし ： 使用できないディスクまたはカードが入っています
- II● ： ディスクまたはカードの残量がありません
または、コピーガードがかかっている映像を録画しようとしています

ヒント

- 液晶画面を対面撮影状態にすると、ビューファインダーでも映像を確認できます。

- 対面撮影時の液晶モニターの映像は、鏡のように左右反対に表示されます。
- 対面撮影時でもマニュアルフォーカスや露出、画面表示モードを切り替えることはできますが、画面には表示されません。

RAM R カード

他の AV 機器からの映像を記録する

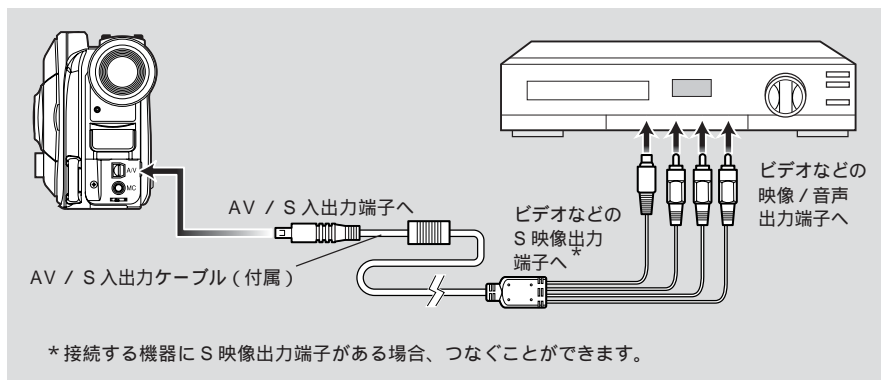
他の AV 機器から本機のディスクまたはカードに録画することができます。

始める前に

- 本機と他の機器を接続するときは、両方とも電源を切って接続してください。
- 本機に記録可能なディスクまたはカードを入れてください（☞ P.23、26）。

他の AV 機器と接続する

付属のAV／S入出力ケーブルを使って、本機と他のAV機器を下図のように接続します。

＊接続する機器に S 映像出力端子がある場合、つなぐことができます。

- S 端子を使うと、よりきれいな映像をお楽しみいただけます。
- スピーカーより音声がでます（音量が大きいと映像にノイズが入る場合があります）。

ご注意

- 他の機器から本機に録画中に途中で電池が切れないよう、必ず AC アダプター／チャージャーを使って、コンセントから電源をとってください。
- 当社製のビデオデッキをお使いの場合は、本機のリモコンで動作することがあります。当社製のビデオデッキから映像を録画する場合は、ビデオのリモコンコードを「VTR2」以外に変更してお使いください。

他の AV 機器から録画する

1 **本機の入力切替を「外部」にする**

P.85「入力切替」を参照して、切り替えてください。
S 入力をする場合は、「S 外部」にしてください。

2 **接続した機器の電源を入れ、再生を開始する**

本機の液晶モニターに映像が映ります。

3 **本機の「録画」ボタンを押す**

本機で録画が始まります。
録画するときの操作方法は、「動画を撮る」と同じです（☞ P.47）。

ヒント

- DVD-RAM ディスクやカードをお使いになると、静止画の録画ができます。詳細については、P.86 の「静止画外部入力」を、操作のしかたについては、P.49 の「静止画を撮る」を参照してください。

ご注意

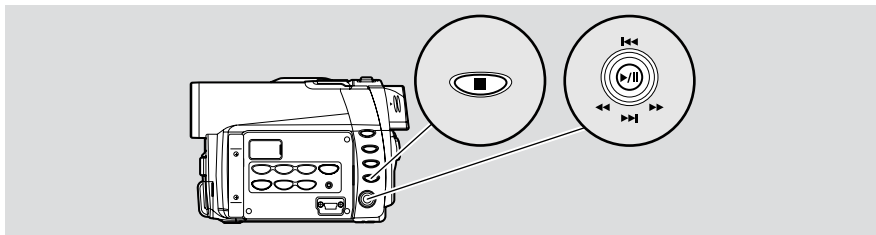
- 録画した内容は、カメラで撮影した映像を再生するときと同様に再生することができます。
- 「入力切替」の設定は、電源を切ると「カメラ」に戻ります。
- 個人でビデオカメラにより撮影した映像以外は、ほとんどの場合が著作権保護のための複製禁止信号（コピーガード信号）により録画が禁止されています。本機では " 記録はできません " と表示され、録画できません。

  DVD ビデオ・LD・ビデオソフトテープ・デジタル衛星放送（一部）などが著作権保護された代表的な映像です。
- 個人でビデオカメラにより撮影した映像など複製禁止信号のない映像であっても、信号の状態によっては正常に録画できないことがあります。
- 記録中にテレビなどのチャンネルを切り替えたり、ビデオセレクターなどで信号を切り替えたりして入力信号が途切れると、正常に録画できません。

再生する

撮影した映像を再生してみましょう。

始める前に

- 本機で録画したディスクまたはカードを入れてください（☞ P.47、49）。
- 電源を入れてください（☞ P.42）。

RAM　R　カード

再生する

1　記録一時停止状態のときに ▶/II を押す

最後に撮影したシーンが再生されます（「シーン」については、P.93 を参照してください）。
再生が終わると、最後の場面で再生一時停止状態になります。
最後の場面で再生一時停止状態が約 5 分続くと、自動的に記録一時停止状態に戻ります。

2　□（停止／キャンセル）ボタンを押す

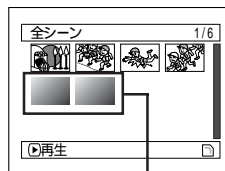
再生を停止します。
記録一時停止状態に戻ります。

ヒント

- 動画を再生中は、スピーカーから再生中の音声を聞くことができます。音量は、「音量」ボタンの ⊖ ⊕ で調節してください。
- 再生を一時停止するときは、 ▶/II を押します。もう一度押すと、再生に戻ります。
- 再生を途中で止めて撮影をしても、最後のシーンのあとに記録します（上書きしてしまうことはありません）。

ご注意

カードの静止画を再生する場合のご注意。

- 本機では、SD メモリーカードに記録され DCF 規格に対応した他のデジタルカメラの画像データを再生することができます。ただし、再生できる画素数は、水平方向 80 画素×垂直方向 60 画素から水平方向 4000 画素×垂直方向 3000 画素までです。この画素数の範囲外の場合、青色のサムネイル（右図*）が表示され再生できません。
- 上記画素数内であっても、他のデジタルカメラの記録状態によっては、再生できない場合があります。
- DCF(Design rule for Camera File system)とは、デジタルカメラの統一画像ファイルフォーマットです。DCF対応のデジタル機器では、相互に画像ファイルを利用することができます。
- 静止画を再生すると、“ 再生を開始します。” と表示されますが、画素数の大きな静止画では表示されるまでに時間がかかります。

- パソコンなどで編集した画像データや画像データの種類によっては表示されないことがあります。
- 他機で録画した画像データは、本機で再生されない場合があります。
- 再生するデータのサイズによっては、再生画像を表示するまでに時間がかかる場合があります。
- アクセスランプが点灯または点滅しているときは、電源操作やカードの取り出しなどを行なった場合、カードの破損やカード内のデータが破壊されることがあります。

RAM　R　カード

ディスクやカードの先頭から再生する

ディスクやカードの最初から再生したい場合は、ジャンプ機能（☞P.66）やディスクナビゲーション機能（☞P.93）をお使いください。

RAM　R

動画のサーチ再生

再生中にジョイスティックを右または左に押し続けると、サーチ再生をします。

→ 押し続ける ....早送り再生します。

← 押し続ける ....早戻し再生します。

見たい場面になったら、ジョイスティックから手を離してください。
そこから通常の再生になります。

- スキップやサーチをすると、再生や再生一時停止状態から切り替わるときに、一瞬画面が暗くなります。

RAM　R

動画のコマ送り／コマ戻し／スロー再生

再生中、▶/II を押して再生一時停止状態にします。

ジョイスティックを左右に動かすと、コマ送り／コマ戻し／スロー再生をします。

→ 1 回押す .... 映像がひとコマ進みます。

← 1 回押す .... 映像がひとコマ戻ります。

→ 押し続ける .... 正方向にスロー再生します。

← 押し続ける .... 逆方向にスロー再生します。

コマ送り／コマ戻し／スロー再生を行なったあとは、再生一時停止状態になります。

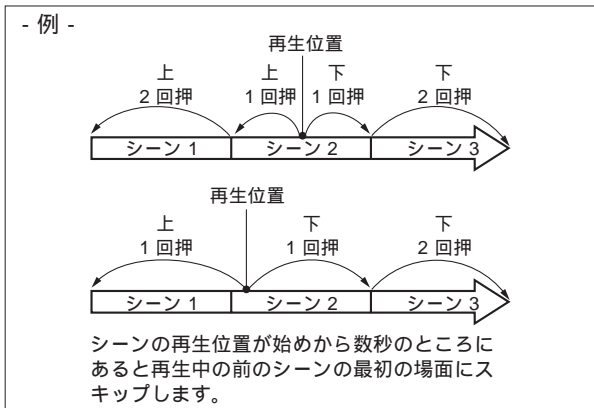
- 正方向スローでは、動きの激しい被写体の画像がブレることがあります。
- コマ送り／コマ戻し／スロー再生の間隔は以下のようになっています。
  正方向コマ送りとスロー：約 0.03 秒ごと
  逆方向コマ送りとスロー：約 0.5 秒ごと
- サーチ再生／スロー再生中は、音声は出ません。

RAM R

動画のスキップ再生

再生中にジョイスティックを上下に動かすと、シーンのスキップ再生をします。

◎↓ 1回押す .... 再生中のシーンの次のシーンの先頭にスキップして、再生します。

◎↑ 1回押す .... 再生中のシーンの先頭に戻って再生します。

◎↓ 押し続ける .... 再生中の次のシーンから、連続頭出しが始まります。見たい場面が表示されたら、ジョイスティックから手を離してください。再生が始まります。

◎↑ 押し続ける .... 再生中の前のシーンから逆方向に、連続頭出しが始まります。見たい場面が表示されたら、ジョイスティックから手を離してください。再生が始まります。

- 正常に動作しない（☞ P.172「チェック」）。

ご注意
- 再生一時停止中にスキップ再生すると、スキップしたシーンで再生一時停止状態になります。
- 最後のシーンで下に動かすと、最後の場面で再生一時停止状態になります。

RAM カード

静止画の再生

再生中、ジョイスティックを上下に動かすと、スキップ再生します。

◎↓ 1回押す .... 順番に1画面ずつ表示します。

◎↑ 1回押す .... 1画面ずつ戻って表示します。

[ディスクをお使いのとき]

ジョイスティックから手を離したところから、連続再生します。

[カードをお使いのとき]

ジョイスティックから手を離したところの画像が表示され、再生一時停止状態になります。

連続表示させたい場合は、スライドショーを設定してください（☞ P.136）。

RAM　R　カード

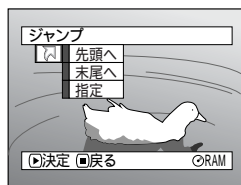
ジャンプ（指定した場面へジャンプする）

1 **再生時に「メニュー」ボタンを押す**

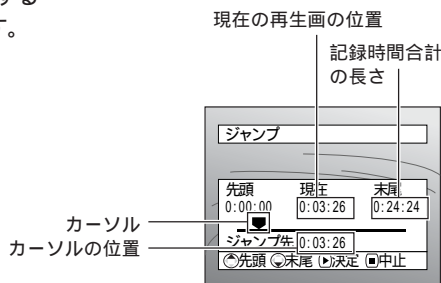
2 **ジャンプしたい項目を選び、決定する**

先頭へ：ディスクの先頭にジャンプして、再生一時停止します。

末尾へ：最後のシーンの末尾にジャンプして、再生一時停止します。

指定　：任意の場面にジャンプして、再生一時停止します。詳細は下記を参照してください。

●ジャンプ先を指定する

1 **上の手順 2 で「指定」を選び、決定する**

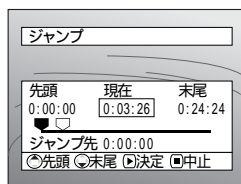
ジャンプ先指定の画面が表示されます。

2 **ジョイスティックで任意の時間を選ぶ**

↑：ディスクの先頭を選択します。

↓：最後のシーンの末尾を選択します。

← →：・1 回押す　：10 秒(カードは 1 枚）単位でカーソルを移動します。

・押し続ける：1分(カードは 10 枚）単位でカーソルを移動します。

（シーンの先頭を選択した場合）

3 **►/II を押して、決定する**

指定した位置にジャンプして、再生一時停止します。

- ディスクナビゲーション機能や「選択」ボタンを使って複数シーンを選択している場合は、「先頭へ」と選んだとき、選択しているシーンの先頭へジャンプします（☞ P.128）。
- 複数シーンを選択している場合は、「記録時間合計」の長さは、選択したシーンの合計時間の長さが表示されます。
- 途中でやめたい場合は、ジャンプする前に□(停止／キャンセル）ボタンを押してください。
- カードの場合は、枚数が表示されます。

ご注意 • カーソルの位置は目安です。カーソルは同じ間隔で移動しない場合があります。

RAM　R　カード

画面表示について

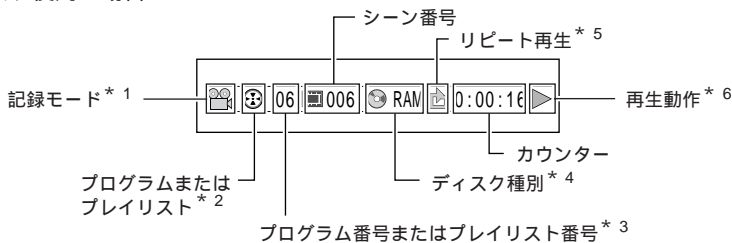
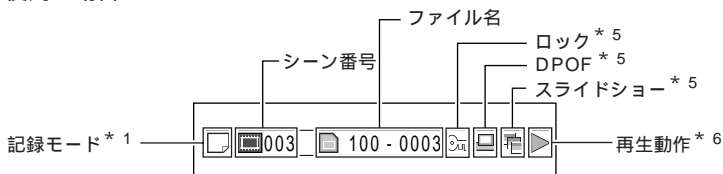
再生時の表示について

再生する映像に重なって、いろいろな情報が表示されます。
「画面表示」ボタンを押すごとに、下記のように切り替わります。

表示なし　再生情報表示　記録日時表示

●画面表示モード

再生情報表示：再生中の状態を表示します。

ディスク使用の場合

カード使用の場合

＊1　：静止画または：動画
　カードのときは、静止画のみ表示されます。
＊2　：プログラムまたは：プレイリスト
＊3　再生中のプログラムやプレイリスト番号（全プログラムを再生中は表示されません）
＊4　P.59 のディスク種別を参照ください。
＊5　設定されているときに表示されます（☞ P.108、109、135、136）。
＊6　▶　：再生中　❚❚　：再生一時停止中　▶▶：正方向サーチ再生中
　◀◀：逆方向サーチ再生中　▶▶❚：正方向スキップ再生中　❚◀◀：逆方向スキップ再生中
　❚❚▶：正方向コマ送り再生中　◀❚❚：逆方向コマ送り再生中
　操作のしかたは P.63 からの「再生する」を参照してください。
　最初の場面では ❚◀ マークが表示されます。
　最後の場面では ▶❚ マークが表示されます。

・ 記録日時表示：記録始めの日時が表示されます。再生しても、日時表示は進みません。
・ 表示なし：再生中の画面には何も表示されません。ただし、再生動作を切り替えたときは、再生動作のマークが約 3 秒間表示されます。

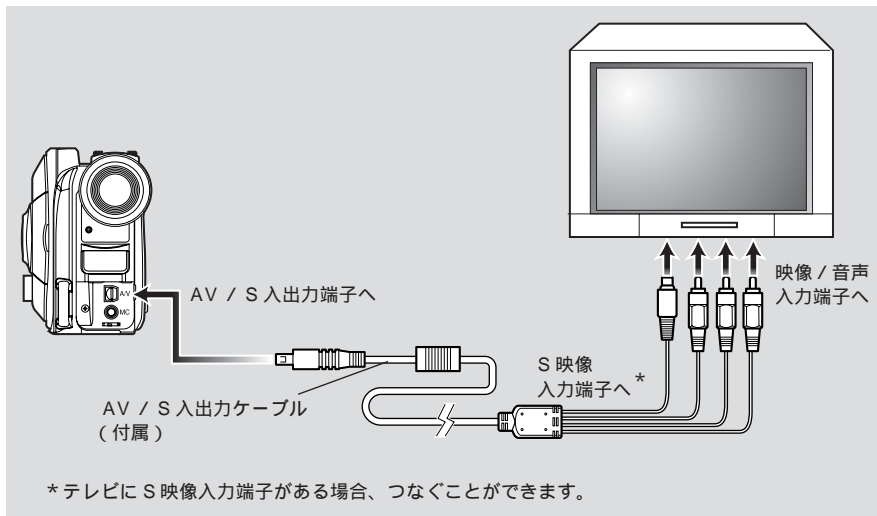
- プログラムやプレイリストについてはP.93からの「ディスクナビゲーション機能を使う」を参照してください。

RAM R カード

テレビで見る

テレビにつなぐ

付属の AV ／ S 入出力ケーブルを使って本機とテレビを下の図のように接続します。

＊テレビに S 映像入力端子がある場合、つなぐことができます。

- S 端子を使うと、よりきれいな映像をお楽しみいただけます。

ご注意

- 接続する前に、必ずテレビの音量が下がっていることを確認してください。テレビのスピーカーから「ピーッ」という音（ハウリング）が出ることがあります。
- AV／S入出力ケーブルはななめに差し込むと端子を破損するおそれがあります。まっすぐに差し込んでください。

テレビで見る

1 テレビの電源を入れ、テレビの入力切替を「ビデオ」にする
テレビの入力切替の方法は、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 本機の電源スイッチを入れる
本機の映像がテレビに表示されます。
同時に本機の液晶モニターまたはビューファインダーでも映像を確認できます。

3 再生や撮影、編集を行なう
再生や撮影、ディスクナビゲーションでの編集など、テレビ画面で確認しながら操作できます。

- 音量の調整はテレビ側で行なってください。
- テレビで見ながら操作するときはリモコンを使うと便利です。ただし、当社製のビデオデッキをお使いの場合は、本機のリモコンで動作することがあるので、その場合はビデオのリモコンコードを「VTR2」以外に変更してお使いください。
- テレビの画面に再生中や録画中の情報も表示されますが、録画中の情報のみ表示しないようにすることもできます。P.88の「画面表示出力」の設定をご覧になり、切り替えてください。

- 複製禁止（コピーガード）処理されたディスクを再生すると、テレビに映像は表示されません。
- ワイドテレビ（画面比率16：9）をお使いで、テレビの設定がワイドモードに設定してあるとき、ディスクナビゲーション画面を表示すると表示が画面に収まらない場合があります。テレビのワイドモードの設定を解除してください（設定の方法はテレビの取扱説明書をご覧ください）。

R

DVD プレーヤーで見る

DVD-R ディスクは、DVD プレーヤーや他の 8cm DVD-R 対応機器で再生できます。ただしすべてに対応しているわけではありません。

1 DVD-R ディスクをファイナライズする

DVD プレーヤーで見るには「ファイナライズ」が必要です。P.133 をご覧ください。

ファイナライズしたディスクには、記録することができません。

- 本機で記録したディスクは、本機でファイナライズしてください。

2 丸型ホルダーからディスクを取り出す

P.72 の「丸型ホルダーからのディスクの出し入れ」を参照してください。

3 DVD プレーヤーに入れて再生する

DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

- 本機で記録したDVD-Rディスクは、他のDVDプレーヤーでの再生に対応しておりますが、すべての再生を保証するものではありません。
  ご使用いただくDVDプレーヤーやDVD-Rディスクの記録状態によっては、再生できない場合もあります。この場合、DVD-R ディスクは本機で再生してください。

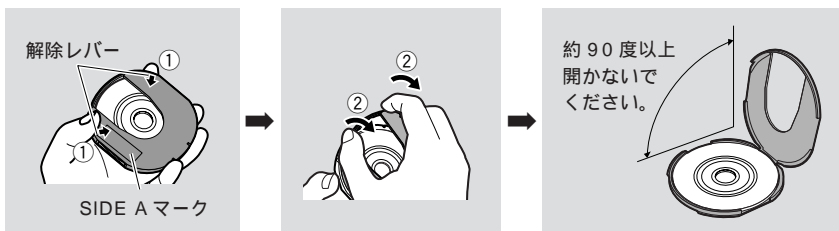
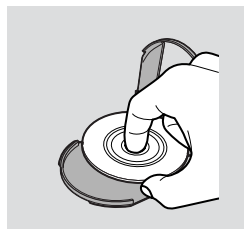
丸型ホルダーからのディスクの出し入れ

本機で使用するDVD-RAMディスクやDVD-Rディスクは、丸型ホルダーから取り出して8cmDVD-RAMや8cmDVD-Rに対応したDVDプレーヤー、DVD-RAMレコーダー、パソコン用ドライブなどで利用することができます。丸型ホルダーからの取り出しかたは、ディスクメーカにより異なることがありますので、ディスクの取扱説明書をご覧ください。ここでは、日立マクセル製の丸型ホルダー入りディスクについて説明します。
なお、ディスクに汚れが付くことを避けるため、カメラで撮り終わるまでは、丸型ホルダーからディスクを取り出さないことをおすすめします。

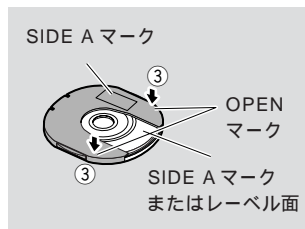
- 取り出したディスクは、すべての機器での使用を保証するものではありません。

ディスクの取り出し方法

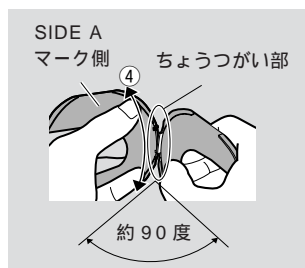
1 SIDE A を上向きにし、左右 2 箇所の解除レバーを矢印 ① の方向に押しながら、丸型ホルダーの SIDE A を矢印 ② の方向に開ける

このとき、ディスクを落とさないよう、ゆっくり開けてください。

2 記録再生面に手を触れないように、ディスクの端と中心穴をつまみディスクを取り出す

ディスクの収納方法

1 **丸型ホルダーの SIDE　A を開け、ディスクの SIDE A マークまたはレーベル面を上向きにし、ディスク面に手を触れないようにしてディスクをホルダーに収納する**

2 **丸型ホルダーの SIDE A を閉じ、③ の位置の解除レバーがロックするまで押す**

丸型ホルダーのちょうつがいが外れたとき

1 **SIDE A のマークがある側のちょうつがい部を、親指と中指で押して矢印 ④ のように湾曲させる**

2 **湾曲させたちょうつがい部に、反対側のちょうつがい部をはめ込む**

- 記録再生面に傷、汚れ、指紋、ほこりなどが付かないように取り扱いください。
- 丸型ホルダーを使用しないときは、ケースに入れて保存してください。丸型ホルダーを裸の状態で放置しないでください。
- 落下衝撃に注意してください。丸型ホルダーを落としますと、ディスクが飛び出すことがあります。
- 強い力を加えないでください。丸型ホルダーが割れることがあります。

ディスクのクリーニングについて

付着したほこり、汚れなどは、乾いた柔らかい布を使用し、右図のように軽くふき取ってください。
なお、溶剤類（シンナー・水・帯電防止剤など）は絶対に使用しないでください。

柔らかい布で内周から
外周方向へ軽くふく

DVD ビデオレコーダー／プレーヤーで見る

本機で記録した DVD-RAM ディスクは DVD-RAM 対応の DVD ビデオレコーダーや、DVD-RAM 対応の DVD プレーヤーで再生できます。

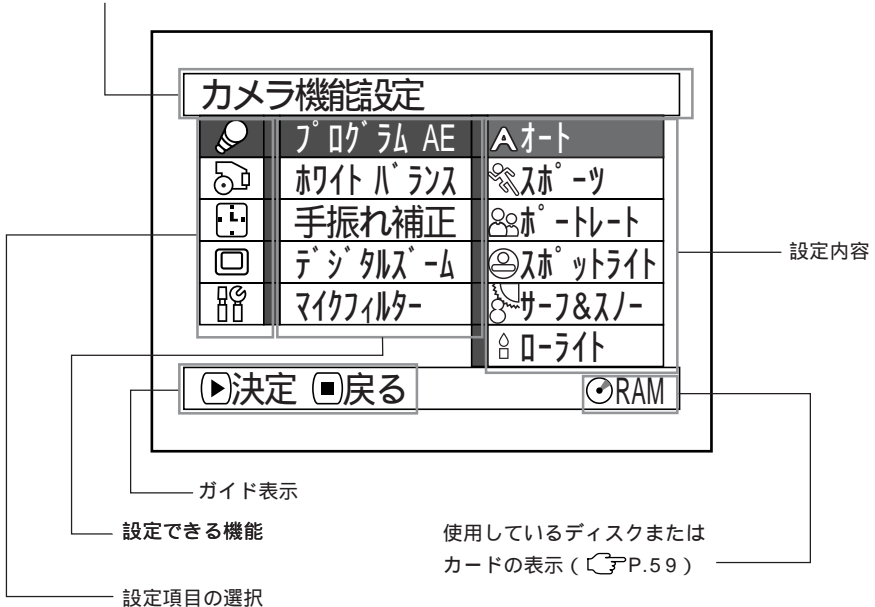
1 丸型ホルダーからディスクを取り出す

2 DVD レコーダー／プレーヤーに入れて再生する
DVD レコーダー／プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

- ファイナライズしていないDVD-RディスクはDVDレコーダーに入れないでください。記録されている画像データが破壊されることがあります。
- 他の機器で再生するときは、本機のディスクナビゲーション表示とは異なることをご了承ください。

メニューの流れを確認する

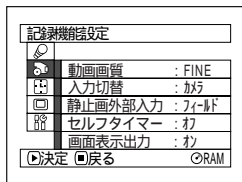
カメラの画像が出ているときにメニューボタンを押すと、カメラ機能設定のメニュー画面が表示されます（録画時を除く）。
項目を選択するときは、ジョイスティックを上下左右に動かします。決定するときは、▶/II を押してください。
設定方法については、P.77 をご覧ください。
ここで説明している画面は DVD-RAM ディスクを使用したときの画面です。DVD-R ディスクやカードをご使用のときや、ディスクやカードが入っていないときは表示されない項目もあります。

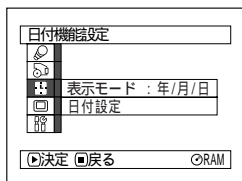
〈設定画面の見かた〉

●メニューの流れ

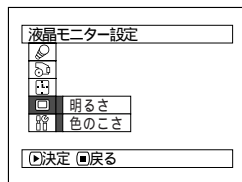
内容の詳細については、各参照ページをご覧ください。

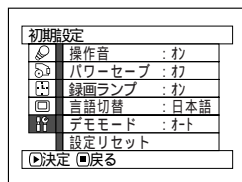
カメラ機能設定

プログラム AE (P.78)
ホワイトバランス (P.79)
手振れ補正 * (P.81)
デジタルズーム (P.82)
マイクフィルター * (P.83)
* カードをお使いのときは、表示されません。

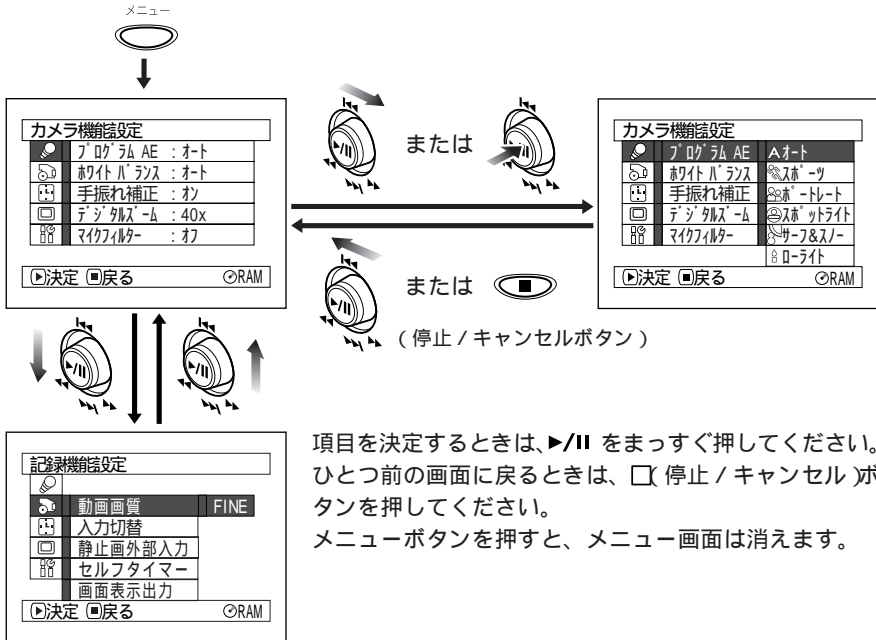
記録機能設定

動画画質 (P.84)
(カードをお使いのときは「静止画画質」が表示されます(P.85))
入力切替 (P.85)
静止画外部入力 (P.86)
セルフタイマー (P.87)
画面表示出力 (P.88)

日付機能設定

表示モード (P.46)
日付設定 (P.45)

液晶モニター設定

明るさ (P.89)
色のこさ (P.89)

初期設定

操作音 (P.90)
パワーセーブ (P.90)
録画ランプ (P.91)
言語切替 (P.92)
デモモード (P.170)
設定リセット (P.92)

メニューのなかのいろいろな設定は、本機のジョイスティックを使って選択／決定することができます。

メニューボタンを押す

項目を決定するときは、▶/II をまっすぐ押してください。
ひとつ前の画面に戻るときは、□（停止／キャンセル）ボタンを押してください。
メニューボタンを押すと、メニュー画面は消えます。

- 録画中に「メニュー」ボタンを押しても、動作しません。
- メニュー画面は、約 1 分間操作しないと消えます。
- DZ-MV380 は、静止画のときに「メニュー」ボタンを押すと、映っている画面の範囲が変わります。メニューを消すと元の画面範囲に戻ります。

メニューの流れを確認する

RAM　R　カード

カメラ機能設定

始める前に

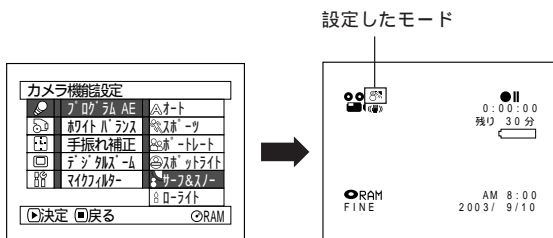
- 設定のしかたは、P.77をご覧ください。

プログラムAE（状況に合った撮影モードを選ぶ）

本機では、被写体と周囲の状況が自動で判別されて最適な映像が撮影されますが、特殊な状況では、その状況に応じた撮影モードを選択して撮影すると、よりきれいに撮影できます。

1 **「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「プログラムAE」を選ぶ**

2 **設定したい撮影モードを選び、決定する**

3 **「メニュー」ボタンを押して終了する**

ヒント

- 設定したモードは画面表示で確認できます。ただし「オート」のときは、何も表示されません。
- 設定した撮影モードは、電源を切っても記憶されています。

●撮影モード

オートモード

被写体と周囲の状況が自動で判断され、最適な映像が撮影されます。

スポーツモード

ゴルフやテニスなど激しい動きを撮影するときに、被写体のブレを少なくします。
ただし、蛍光灯などの下でスポーツモードを使用すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、オートモードで撮影してください。

ポートレートモード

人物や生物などを撮影するときに、背景をぼかして、被写体を浮かび上がらせます。

スポットライトモード

結婚式や舞台など被写体に強い光が当たっているときに、人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。

サーフ＆スノーモード

真夏の海辺やスキー場など照り返しが強い場所で、人物の顔などが暗くなるのを防ぎます。

ローライトモード

暗いところで撮影するとき、少ない明かりでも撮影できます。ただし、動きがある被写体では、残像が出ます。
動画記録画質が「STD」のときは、ローライトモードは選択できません。
また、ピントが合いにくい場合は手動でピントを調節してください。

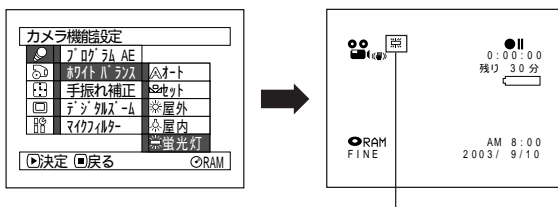
ホワイトバランス（色合いを調整する）

本機は、撮影するときの状況に合わせて自動的に色の調整をしますが、天候や光源の状態によっては自然な色合いを表現できなくなることがあります。
そのようなときは、状況に合わせてホワイトバランスの設定を変えてください。

モード	設定内容	画面表示
オート	ホワイトバランスが常に自動調整されます。	なし
セット	光源や状況に合わせて、手動で設定できます。（設定方法 ☞ P.80）。	
屋外	晴天下での撮影のときに合わせます。	
屋内	白熱球やハロゲンランプ、電球色系蛍光灯などのもとでの撮影のときに合わせます。	
蛍光灯	蛍光灯のもとでの撮影のときに合わせます。	

1 **「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「ホワイトバランス」を選ぶ**

2 **モードを選んで、決定する**

3 **「メニュー」ボタンを押して終了する**

ホワイトバランスのモード

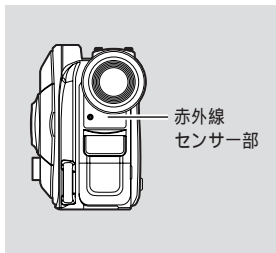
ヒント

- ホワイトバランスのモードは、画面表示で確認できます。
- ホワイトバランスの設定は、電源を切っても記憶されています。

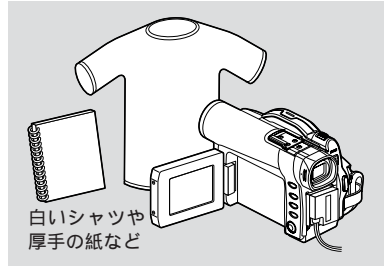
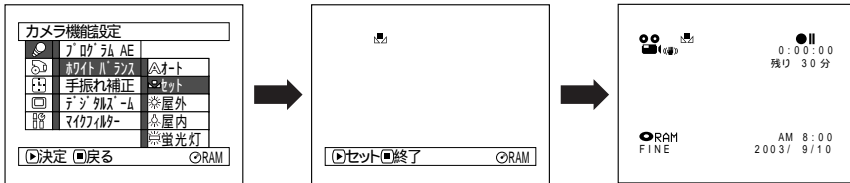
ご注意

- 赤外線センサーの前を手などでふさがないでください。
- テレコンバージョンレンズまたはワイドコンバージョンレンズをご使用の場合、撮影状況によっては、ホワイトバランスが動作しないことがあります。その場合は、撮影状況にあったモードに設定するか、手動でセットしてください。
- レンズキャップをつけたまま電源を入れると、ホワイトバランスが正しく働きません。必ず、レンズキャップを外してから電源を入れてください。

赤外線センサー部

カメラ機能設定

●ホワイトバランスを手動でセットする

1 画面いっぱいに白い被写体を映す

被写体は裏が透けないものをお使いください。
画面いっぱいに映し出すとき、ピントが合わない場合は「マニュアルフォーカス（☞ P.53）」で合わせてください。

2 「メニュー」ボタンを押して、「ホワイトバランス」→「セット」を選び、決定する

3 ▶/IIを押すと、 が点滅し、点灯に変わる

点灯に変わるとホワイトバランスのセット完了です。

4 □（停止／キャンセル）ボタンを押して終了する

- 「セット」のホワイトバランスは、次にセットし直すまで記憶されます。

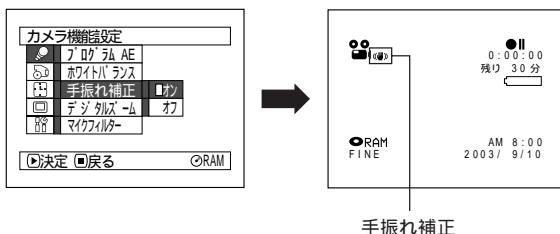
ご注意
- 色がついた被写体を使って設定すると、正しい色合いを設定できません。
- 入力切替設定がカメラ以外の場合は、ホワイトバランスのセットモードは設定できません（☞ P.85）。

手振れ補正（ぶれを少なくして撮る）

本機は手振れ補正機能を備えています。ズームで被写体を大きくして撮る場合でも、撮影した映像があまり振れないように自動で補正されます。

1 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「手振れ補正」を選ぶ

2 「オン」か「オフ」を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

手振れ補正

- 手振れ補正が設定されているかどうかは、画面表示で確認できます。
- 手振れ補正の設定は、電源を切っても記憶されています。
- いつも「オフ」で撮影するのでなければ、撮影後は「オン」に戻してから電源を切ることをおすすめします。

ご注意

- この機能は動画撮影のときのみ有効です。
  静止画撮影のときには動作しません。
- 静止画モードでも手振れ補正の設定を切り替えられますが、動画モードに切り替えたときに有効になります。
- 台の上に置いたり三脚を使用するときは、手振れ補正を「オフ」にすることをおすすめします。
- 手振れ補正が「オン」になっていると、実際の動きと画面の動きには若干の差が生じます。
- 手振れ補正が「オン」になっていても、手振れが大きすぎると補正されないことがあります。
- 市販のテレコンバージョンレンズまたはワイドコンバージョンレンズをお使いのときは、手振れ補正が正しく動作しないことがあります。

デジタルズーム（大きく撮る）

デジタルズームを設定しているとズームレバーを操作したときに、光学10倍を超えたところから自動的にデジタルズームになります。静止画の場合は40倍、動画の場合は40倍と240倍に設定することができます。

1 **「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「デジタルズーム」を選ぶ**

2 **設定したい倍率を選び、決定する**

3 **「メニュー」ボタンを押して終了する**

ズームレバーを動かすと、デジタルズームバーが表示されます。

デジタルズームバー

デジタルズームが「オフ」の時

W T

デジタルズームが（40×）に設定されている時

W T

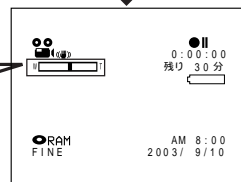
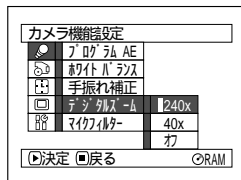
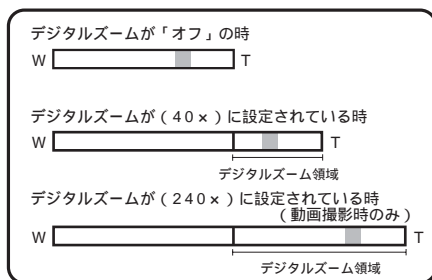
デジタルズーム領域

デジタルズームが（240×）に設定されている時
（動画撮影時のみ）

W T

デジタルズーム領域

カメラ機能設定
プログラム AE
ホワイト バランス
手振れ補正
デジタルズーム 240x
マイクフィルター 40x
オフ
決定 戻る RAM

0:00:00
残り 30分
RAM
FINE
AM 8:00
2003/ 9/10

ヒント

- デジタルズームの設定は、電源を切っても記憶されています。
- リモコンの「デジタルズーム」ボタンを押しても切り替えることができます。ボタンを押すたびに動画撮影の場合は「オフ」→「40x」→「240x」に、静止画撮影の場合は「オフ」↔「40x」に切り替わります。

ご注意

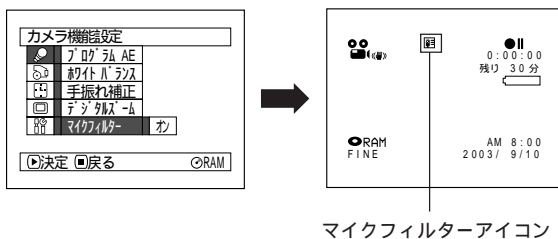
- カードをお使いのときは、「240x」を選択しても最大40倍までのズームになります。
- DVD-RAMディスクをお使いのとき、電源スイッチが「 静止画」に合わせてあるときは「240x」を選択しても最大40倍までのズームになります。

マイクフィルター（風の音を低減させて撮る）

本機の内蔵マイクで録音するとき、風の音を低減させることができます。
「マイクフィルター」を「オン」にしておくと、撮影時にマイクに入る音のうち低域の部分がカットされるため、対象の音が聞き取りやすくなります。

1 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「マイクフィルター」を選ぶ

2 「オン」を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

マイクフィルターアイコン

- マイクフィルターが設定されていることは、画面情報でも確認できます。
- マイクフィルターの設定は、電源を切っても記憶されています。

ご注意
- マイクフィルターは、動画撮影のときのみ働きます。
- マイクフィルターは、内蔵マイクのみ働きます。
- 外部マイクをご使用のときは働きません（☞ P.48）。

記録機能設定

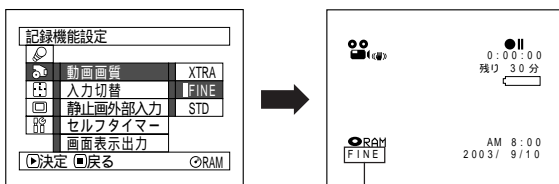
RAM R

動画画質（動画の画質を切り替える）

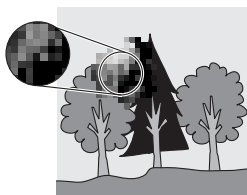
本機では、動画の記録画質を切り替えることができます。
大切な映像は、DVD-RAM ディスクをご使用の場合は「XTRA」か「FINE」で、DVD-R ディスクをご使用の場合は「FINE」で録画することをおすすめします（☞ P.27）。

1 「メニュー」ボタンを押して、「記録機能設定」の「動画画質」を選ぶ

2 設定したい画質を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

動画の記録画質

ヒント

- 動画画質の設定は、電源を切っても記憶されています。
- 下記のような撮影条件のときには、記録した映像にブロック状のノイズや被写体の輪郭にゆがみが出ますのでカメラはできるだけゆっくりと動かすようにしてください（特に「STD」での撮影では出やすくなります）。
  - ・ 背景に複雑な絵柄（樹木やフェンスなど）がある場合（下図左）。
  - ・ 本機を大きくまたは速く動かした場合。
  - ・ 本機を動かさなくても被写体が著しく動いている場合。

（ブロック状のノイズが発生しやすい景色）

（ブロック状のノイズが発生しにくい景色）

ご注意

- 動画画質の設定は、DVD-RAM ディスクと DVD-R ディスクを入れ替えても変わりません。ただし、DVD-RAM ディスク使用時に「XTRA」に設定していた場合と、DVD-R ディスク使用時に「LPCM」に設定していた場合は、ディスクを入れ替えたときに「FINE」の設定になります。
- DVD-Rディスクをお使いのときは、ディスクの途中で画質を切り替えることはできません。最初に録画した動画画質での録画になります。
- 動画画質は、動画の撮影のみ有効です。静止画の撮影では、画質を切り替えても機能しません。

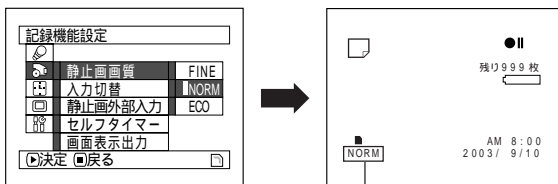
カード

静止画画質（静止画の画質を切り替える）

カードをご使用のときのみ、静止画の記録画質を切り替えることができます。
大切な画像は「FINE」で録画することをおすすめします（☞ P.29「静止画の画質について」）。

1 「メニュー」ボタンを押して、「記録機能設定」の「静止画画質」を選ぶ

2 設定したい画質を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

静止画の記録画質

ヒント

- 静止画画質の設定は、電源を切っても記憶されています。

RAM R カード

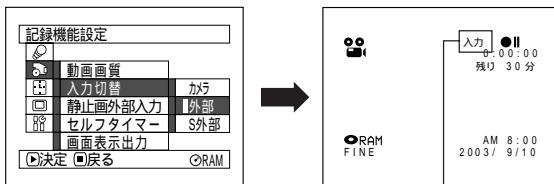
入力切替（他の機器から映像を入力する）

他の機器からの映像を本機に入力するときは、本機の設定を切り替えます。
他の機器との接続方法や、他の機器からの映像を録画する方法は、P.60 からの説明を参照してください。

設　定	設定内容	画面表示
カメラ	通常はこちらに合わせます。	なし
外部	他の機器からの映像を入力するときに合わせます。	入力
S 外部	他の機器からの映像を S 入力するときに合わせます。	S 入力

1 「メニュー」ボタンを押して、「記録機能設定」の「入力切替」を選ぶ

2 設定したい入力モードを選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

外部入力表示

ヒント

- 入力切替の設定は、電源を切ると「カメラ」に戻ります。

記録機能設定

RAM カード

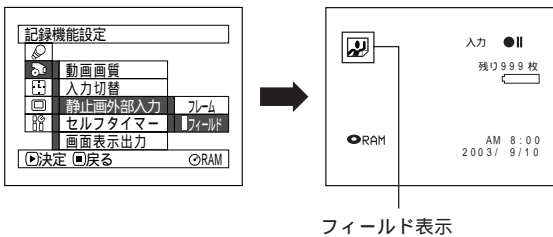
静止画外部入力（外部入力映像の録画方式を切り替える）

DVD-RAM ディスクとカードをお使いのときは、外部入力の映像を静止画で撮ることができます。静止画を撮るときの録画方式を 2 通りに切り替えられます。
動きの少ない映像は「フレーム」で撮ることもできますが、動きのある映像を録画するときは「フィールド」をおすすめします。

録画方式	設定内容	画面表示
フレーム	高画質ですが、動きの多い画像の録画には適しません。画面にぶれが生じやすくなります。動きの少ない画像の録画に適しています。	
フィールド	画面のぶれは比較的少なく、動きの多い画像の録画に適しています。	

1 「メニュー」ボタンを押して、「記録機能設定」の「静止画外部入力」を選ぶ

2 設定したい録画方式を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

フィールド表示

ヒント

- 外部入力映像の静止画の録画方式は、画面表示で確認できます。
- 静止画外部入力の設定は、電源を切っても記憶されています。
- 他の機器との接続のしかたは、P.61「他の AV 機器からの映像を記録する」をご覧ください。

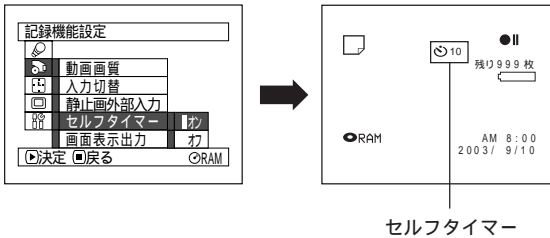
セルフタイマー

自分や自分を含めた数人の静止画を撮るときに、一般のカメラと同じようにセルフタイマーで撮影することもできます。

1 「メニュー」ボタンを押して、「記録機能設定」の「セルフタイマー」を選ぶ

2 「オン」を選び、決定する

「セルフタイマー」が設定されます。

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

セルフタイマー

4 「録画」ボタンを押す

本機の前面にある録画ランプが点滅します。

セルフタイマーの表示がカウントダウンして、約 10 秒後に記録されます。

- セルフタイマーが設定されていることは、画面表示でも確認できます。
- セルフタイマーを解除したい場合は、設定を「オフ」にするか、一度電源を切ってください。
- セルフタイマーを中断する場合は、記録される前に、もう一度「録画」ボタンを押すか、□(停止／キャンセル）ボタンを押してください。

ご注意 • セルフタイマーは静止画撮影のときのみ有効です。

RAM R カード

画面表示出力

本機をテレビにつないで見るときは、ビューファインダーや液晶モニターに表示される画面情報をテレビに表示しないようにできます（☞ P.69「テレビで見る」参照）。

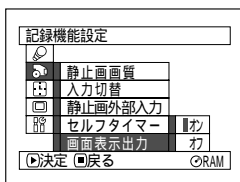
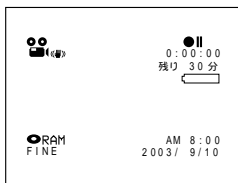
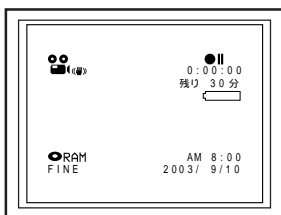
1 「メニュー」ボタンを押して、「記録機能設定」の「画面表示出力」を選ぶ

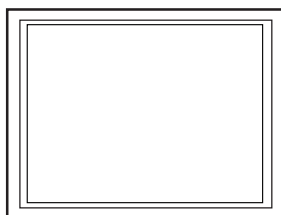
2 「オン」か「オフ」を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

液晶モニターまたはビューファインダー

「オン」を選択

0:00:00
残り 30分
RAM
FINE
AM 8:00
2003/ 9/10

テレビ画面

「オフ」を選択

テレビ画面

ヒント

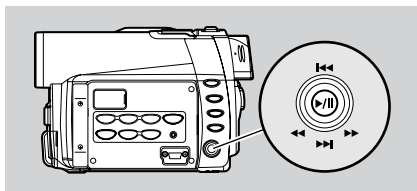
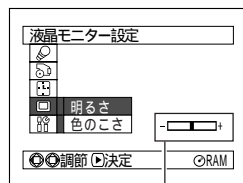
- 画面表示出力の設定は、電源を切っても記憶されています。
- 「オフ」に設定しても、再生時の画面表示は表示されます。再生時の画面表示についてはP.67をご覧ください。
- 画面情報はテレビ画面に表示されなくても、ビューファインダーや液晶モニターには表示されます。

RAM R カード

液晶モニター設定

撮影や再生をするとき、液晶モニターの明るさや色のこさを調節することができます。

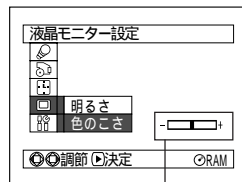
明るさ（液晶モニターの明るさを設定する）

1 「メニュー」ボタンを押して、「液晶モニター設定」の「明るさ」を選ぶ
画面に明るさを調節するバーが表示されます。

2 ジョイスティックで調節する
◎←…暗くなります
◎→…明るくなります

明るさ調節バー

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

色のこさ（液晶モニターの色のこさを設定する）

1 「メニュー」ボタンを押して、「液晶モニター設定」の「色のこさ」を選ぶ
画面に色のこさを調節するバーが表示されます。

2 ジョイスティックで調節する
◎←…色がうすくなります
◎→…色がこくなります

色のこさ調節バー

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

- 明るさや色のこさの設定は、電源を切っても設定リセットを行なっても記憶されています。（☞ P.92）

初期設定

操作音を出す／消す

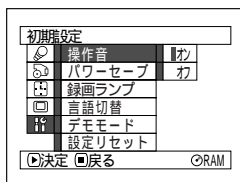
本機は、電源の入／切、動画モードで録画ボタンを押したときなどに、操作音が出るようになっています。必要がない場合は、操作音を消すことができます。

設　定	設定内容
オン	操作音が出ます。
オフ	操作音が出ません。

1 「メニュー」ボタンを押して、「初期設定」の「操作音」を選ぶ

2 「オン」か「オフ」を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

- 操作音の設定は、電源を切っても記憶されています。

パワーセーブ（自動的に電源を切る）

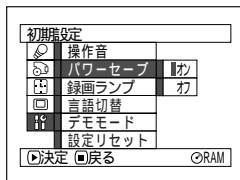
本機にはパワーセーブの設定があります。
パワーセーブを設定した場合、記録一時停止で何も操作しない状態が約 5 分間続くと、自動的に電源が切れてバッテリーの消耗を防ぐことができます。

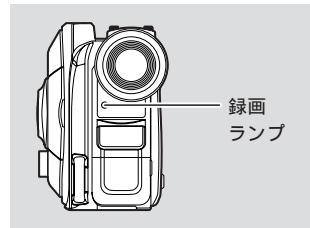
設　定	設定内容
オン	パワーセーブを設定します。
オフ	パワーセーブを解除します。

1 「メニュー」ボタンを押して、「初期設定」の「パワーセーブ」を選ぶ

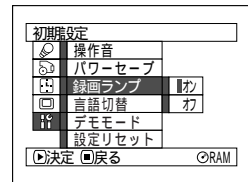
2 「オン」か「オフ」を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

- パワーセーブの機能により電源が切れたあと電源を入れたいときは、一度電源スイッチを「電源／切」にしてから電源を入れてください。
- パワーセーブの設定は、画面情報には表示されません。
- パワーセーブの設定は、電源を切っても記憶されています。

録画ランプ点灯／消灯

本機の前面にある録画ランプを消すことができます。

設　定	設定内容
オン	録画しているとき、録画中であることをお知らせするため、赤く点灯します。
オフ	録画中でも録画ランプは点灯しません。

1 「メニュー」ボタンを押して、「初期設定」の「録画ランプ」を選ぶ

2 「オン」か「オフ」を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

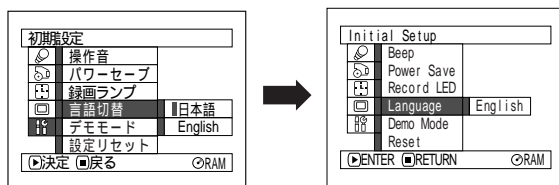
- 録画ランプの設定は、画面情報には表示されません。
- 録画ランプの設定は、電源を切っても記憶されています。
- ガラスごしや水槽など反射するものを撮影するときなどにオフにすると､録画ランプの反射光が撮影されません。

言語切替（表示言語の切り替え）

メニューの表示や情報表示の言語を英語に切り替えることができます。
ここでは、日本語表示から英語表示に切り替えてみましょう。

1 「メニュー」ボタンを押して、「初期設定」の「言語切替」を選ぶ
「日本語」が選択されています。

2 「English」を選び、決定する
表示が英語に切り替わります。

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

• 表示言語の設定は、電源を切っても記憶されています。

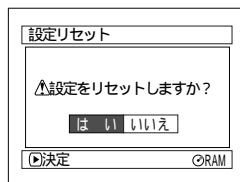
ご注意
• 表示言語を英語にしても、「Language」の選択肢には「日本語」「English」と表示されます。

設定リセット（メニューを初期状態に戻す）

カメラメニューの設定を初期状態（工場出荷時の設定値（☞ P.186））に戻すことができます（日付・時刻設定と、液晶モニターの明るさ、色のこさは戻りません）。

1 「メニュー」ボタンを押して、「初期設定」の「設定リセット」を選ぶ
「設定リセット」の確認画面が表示されます。

2 リセットしてよい場合は、「はい」を選び、決定する
設定項目が初期状態になります。

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

• リセットを途中でやめたい場合は、手順 2 の確認画面で、「いいえ」を選ぶか、□(停止／キャンセル）ボタンを押してください。